



応用生態工学会ニュースレター
Ecology and Civil Engineering Society (ECESJ)

No.69

2015 (平成 27) 年 7 月 31 日 (金) 発行

[発行所] 応用生態工学会事務局 〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405 号室

TEL:03-5216-8401 FAX:03-5216-8520 E-mail: eces-manager@ecesj.com HP: <http://www.ecesj.com/>

[発行者] 応用生態工学会 (編集責任者: 幹事長 藤田乾一, 事務局長 小川鶴蔵)

1	はじめに	2
2	応用生態工学会第 19 回総会開催案内	2
3	第 19 回郡山大会案内	3
4	次期役員募集・推薦委員会報告	30
5	学会規約細則が改正されました	31
6	会誌の投稿規程が改訂されました	31
7	理事会報告	32
8	行事開催案内	
8-1	応用生態工学会 2015 年度国際シンポジウム	34
8-2	応用生態工学会札幌セミナー	35
8-3	第 14 回北信越現地ワークショップ in 富山	36
9	行事開催報告	
9-1	地域勉強会 in 福井の報告	38
9-2	第 2 回北信越技術研究会の報告	41
10	海外学会派遣報告 (SFS Annual Meeting 2015 参加報告)	43
11	年間行事予定	44
12	事務局より	46

1 はじめに

第 19 回郡山大会の詳細が決まりましたので、ご案内いたします。口頭発表数が、これまでで最も多い 49 課題になり、ポスター発表も、盛況だった昨年の東京大会の 74 課題を上回る 75 課題が予定されています。初めての試みとなる賛助会員による展示があります。また、東日本大震災の復興現場などのエキスカージョンも用意されています。多くの会員のご参加をお待ちしております。

また、今年は役員の改選期に当たります。次期役員募集・推薦委員会において推薦のあった役員候補について、委員会からの報告を掲載しています。ご確認ください。

なお、来年は、応用生態工学会の設立 20 周年目となります。第 76 回理事会（メール会議、本年 5 月 15～21 日）では、**来年（2016 年）の第 20 回大会を応用生態工学会 20 周年記念大会として開催すること**に決定しました。これから、来年の 20 周年記念大会の開催に向けた準備が始まります。

2 応用生態工学会第 19 回総会開催案内

応用生態工学会第 19 回総会を下記のとおり開催いたします。正会員の皆様のご出席をお願いします。

第 19 回総会は、応用生態工学会第 19 回郡山大会の 3 日目に開催します。

日 時：平成 27 年 9 月 12 日（土） 10：30～11：30

場 所：日本大学工学部キャンパス 70 号館

福島県郡山市田村町徳定字中川原 1

なお、総会の成立には正会員の 1/5 の出席が必要です。総会に欠席される正会員の方は、別途、学会事務局より送信、送付する委任状及び第 10 期役員信任投票用紙（電子メールまたはハガキ）に必要事項を記入のうえ、8 月 24 日(月)までに事務局までご返信くださいますよう、お願いいたします。

総会資料は、8 月中旬にホームページ上で公開する予定ですので、ご確認ください。

3 第 19 回郡山大会案内

応用生態工学会 第 19 回大会案内 (郡山大会)

2015 年 (平成 27 年) 9 月 10 日 (木) ~9 月 13 日 (日)

第 19 回総会・研究発表会・自由集会・公開シンポジウム・エクスカーショ

1. 大会概要

応用生態工学会では、2015 年 (平成 27 年) 9 月 10 日 (木) ~9 月 13 日 (日) に福島県郡山市にて、第 19 回大会を開催します。

9 月 10 日 (木) ~11 日 (金) に行われる研究発表では、49 件の口頭発表、75 件のポスター発表が行われます。また、自由集会としては、河川砂防技術基準 (調査編) に関する会議も含め、8 つの集会が予定されています。

9 月 12 日 (土) には、公開シンポジウム「生態系機能を活用した減災/防災/復興」を開催します。招待講演として、米国海洋大気庁 (NOAA) の Kateryna M. Wolk 博士から、米国でのハリケーン・サンディ復興戦略と海岸のレジリエンスについてお話していただくほか、九州大学の島谷幸宏教授より日本でのグリーンインフラストラクチャー (G I) に関する取り組み状況等についてご講演していただきます。このシンポジウムは河川整備基金、みちのく国づくり支援事業の助成を受けて実施し、一般にも公開します。

エクスカーションは、9 月 10 日 (木) に三春ダム、9 月 13 日 (日) には福島県の海岸防災林・防災緑地事業および仙台湾南部海岸での防潮堤・湿地の保全状況の視察を行います。

なお、本大会は、土木学会継続教育 (C P D) プログラムに認定されています。

【会場】

○研究発表・総会・公開シンポジウム：日本大学工学部キャンパス 70 号館

住所：福島県郡山市田村町徳定字中河原 1

電話：024-956-8600 (代表)

URL：<http://www.ce.nihon-u.ac.jp/links/access.html>

○懇親会：日本大学工学部キャンパス 70 号館 9 階多目的ホール

○エクスカーション

< A コース >：三春ダム

< B コース >：福島県松川浦・仙台湾南部海岸

【大会日程】

9 月 10 日 (木)

- ・エクスカーション A コース (三春ダム)

9 : 45	JR 郡山東口	出発
13 : 15	日大工学部正門	到着
- ・自由集会「応用生態工学ならではの魅力ある啓発・普及コンテンツとは？」

09 : 30~11 : 30	7011 教室
-----------------	---------
- ・自由集会「自然の浄化機能を活かした水質浄化技術」

09 : 30~11 : 30	7012 教室
-----------------	---------
- ・ポスターコアタイム 1

12 : 45~14 : 15	ロビー
-----------------	-----
- ・ポスターコアタイム 2

14 : 15~15 : 45	ロビー
-----------------	-----
- ・会議「河川砂防技術基準 (調査編) をもとにした意見交換会」 (傍聴可)

16 : 00~18 : 00	7011 教室
-----------------	---------
- ・自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う！」

16 : 00~18 : 00	7012 教室
-----------------	---------
- ・自由集会「未来の自然災害に向けて応用生態工学ができることは何か？」

16 : 00~18 : 00	7021 教室
-----------------	---------
- ・自由集会「流域地質と山地河川の生態系」

17 : 30~19 : 30	7013 教室
-----------------	---------

9 月 11 日 (金)

- | | | |
|--|-------------|-------------------|
| ・口頭発表 | 09:30~12:00 | 7011,7012,7013 教室 |
| | 13:00~15:00 | 7011,7012,7013 教室 |
| ・自由集会「応用生態工学からダム管理を考える」 | 15:30~18:00 | 7011 教室 |
| ・自由集会「中小河川における多自然川づくり,課題そして展望
ーテキスト刊行に向けた認識の共有を目指してー」 | 15:30~18:00 | 7012 教室 |
| ・懇親会 | 18:30~20:30 | 7階多目的ホール |

9 月 12 日 (土)

- | | | |
|-------------------------------|-------------|---------|
| ・総会 | 10:30~11:30 | 7014 教室 |
| ・公開シンポジウム「生態系機能を活用した減災/防災/復興」 | 13:00~16:30 | 7014 教室 |
| ・エクスカージョン B (松川浦・仙台湾南部海岸コース) | | |
- 公開シンポジウム 16:30 終了後 17:00 日大工学部から「いわき市湯本温泉」へバス移動

9 月 13 日 (日)

- | | | |
|------------------------------|-------|------------|
| ・エクスカージョン B (松川浦・仙台湾南部海岸コース) | 8:15 | いわき湯本温泉 出発 |
| | 15:45 | 仙台空港・着 |
| | 16:30 | JR 仙台駅・着 |

<参加/発表される皆様へ>

《受付》

- ・9 月 10 日(木)は, 9:00 から参加の受付を開始します. 時間帯によって, 受付は非常に混雑することが予想されます. 早めに受付をお済ませください.
- ・9 月 10 日(木)のエクスカージョン B コース (三春ダム) に参加を申し込みされた方には, 集合や移動, 注意事項等の詳細を改めてお知らせします.
- ・9 月 11 日(金)は, 9:00 から参加の受付を開始します. 発表者のパワーポイントファイルの受付は 8:30 から行います.
- ・9 月 12 日(土)の総会は, 10:00 から参加の受付を開始します.
- ・9 月 12 日(土)の公開シンポジウムは, 12:30 から参加の受付を開始します. 公開シンポジウムのみに参加される方は無料です.
- ・9 月 12 日(土)~9 月 13 日(日)のエクスカージョン B コース (松川浦・仙台湾南部海岸) に参加を申し込みされた方に, 集合や移動, 注意事項等の詳細を改めてお知らせします.
- ・受付は 70 号館 1 階ロビーです. 名札をお渡ししますので, 会場内では必ず名札を付けてください.
- ・研究発表会参加費は, 会員 6,000 円, 学生 3,000 円, 非学会員 10,000 円, 費用には講演要旨集の料金が含まれます. 大会運営をスムーズに行うため, 事前申込および振込にご協力ください.
- ・懇親会参加費は正会員・賛助会員・非会員5,000円, 学生3,000円です. 参加者人数の把握や当日の運営をスムーズに行うため, 事前申込および振込にご協力ください.

《口頭発表される方へ》

- ・口頭発表は全て備え付けのパソコンと液晶プロジェクターで行います. パソコンの持ち込みはできません. OS は Windows 7, プレゼンテーションソフトは Power Point 2013 (Office 2013) です. Mac, 古いバージョンの Power Point, あるいはその他のソフトでプレゼンテーションを作成される方は, 事前に Power Point 2013 で動作するか確認を行ってください (動作確認用を希望される方は会場係に申し出てください). また, 備え付けのパソコンは, 通常の Windows 7 日本語版で標準にインストールされているフォントのみが表示できます.
- ・パワーポイントのファイルは, 発表番号と発表者の名字の英語表記をファイル名とし (例: A1_osugi), 発表会場の受付に提出してください. ファイルはウィルスに感染していないことを確認のうえ, USB メモリ, CD-R で

持参してください (MO, DVD, CD-RW は不可) . 提出期限は以下のとおりです.

9 月 11 日 (金)	午前セッション (A, B, C, D, E, F, G)	9:00 まで
	午後セッション (H, I, J)	12:00 まで

- ・発表時間は発表 12 分, 質疑応答 3 分の合計 15 分です. 1 鈴 : 10 分, 2 鈴 : 12 分, 3 鈴 : 14 分 30 秒です. 時間厳守にご協力ください.
- ・パソコンの操作は基本的に会場係が行いますが, 自分で操作される方は会場係にお伝えください.

《ポスター発表される方へ》

- ・ポスター発表の会場は, 70 号館 1F 玄関ホールです. パネルにポスター番号を貼り付けていますので, ご自分の発表番号のパネルにポスターを貼り付けてください.
- ・ポスターは横 90 cm, 縦 180 cm 以内のサイズで作製してください. ただし縦のサイズは床からのパネル高さのため, 見やすい位置に貼り付けられるポスターサイズをお勧めします (A0 判 841mm×1189mm を推奨します).
- ・ポスターの上部に演題・発表者・所属を書いてください. 発表者が複数の場合は, 代表発表者の名前の前に○印を付けてください.
- ・ポスターの掲示期間は 9 月 10 日 (木)~11 日 (金)15:30 までの期間とし, ポスターは 10 日 (木)の 9:00~12:45 の間に持参者自身で掲示してください.
- ・ポスター発表の発表件数が多いため, コアタイムは 2 部制にいたします. 各コアタイムとも 1 時間 30 分です.
- ・コアタイム 1 (発表番号末尾奇数の方) は, 9 月 10 日 (木)12:45~14:15, コアタイム 2 (発表番号末尾偶数の方) は, 9 月 10 日 (木)14:15~15:45 です. ご自身のコアタイムのスケジュールをご確認され, 自分の該当するコアタイムでは, ポスターの前で発表を行ってください.
- ・ポスターの撤収は 9 月 11 日 (金)15:30 から 18:00 の間までに持参者自身で撤収してください. 掲示時間を過ぎてもポスターを貼り付けたままの場合は, 実行委員がポスターを取り外します. 取り外したポスターは, 大会期間中は実行委員会で保管いたしますが, 大会後は処分します.
- ・ポスターの事前送付は, 事故防止のため一切受け付けません. 発表当日に各自で持参してください. ポスターを貼り付ける押しピン, セロテープ等は会場に準備しています. 指示棒などは各自持参してください.
- ・PC などの電子機器でデモンストレーションを行っても構いませんが, 電源はありません. また大きな音の鳴るデモンストレーションなど, 周囲の発表者への迷惑となる行為はご遠慮ください.

《発表賞》

- ・申請のあった若手研究者, 現場技術者または行政担当者の発表から優秀発表賞を選定します. 研究の内容, プレゼンテーション技術などを基準に審査します. 口頭/ポスターおよび研究/事例の各類別 (全 4 類別) について秀でた発表に優秀発表賞 (各若干名) を, 最も秀でた口頭発表およびポスター発表に最優秀発表賞 (各 1 名) を授与します.
- ・12 日 (土) の総会 (10:30~11:30) に続いて, 優秀発表賞の表彰を行います.

2. 公開シンポジウム

＜このシンポジウムは、公益財団法人河川財団の河川整備基金の助成、一般社団法人東北地域づくり協会「みちのく国づくり支援事業」として支援を受けています。＞

【テーマ】

「生態系機能を活用した減災/防災/復興」

【企画のねらい】

国土強靱化基本法に掲げられている「地域の特性に応じて、自然との共生及び環境との調和に配慮」する方針は、応用生態工学会が目指す「人と生物の共存」、「生物多様性の保全」、「健全な生態系の持続」を海岸や河川において実現していくことと一致しています。特に、東日本大震災被災地等で進められている復興・防災・減災事業から有効な教訓を抽出することが重要であると考えられます。

復興・防災・減災事業では、地域の自然環境・生態系ネットワークを適正に保全・管理する必要がある、それを実現する手段として、近年、多様な生態系を重要な社会基盤とみなすグリーンインフラストラクチャー（GI）の考え方に注目が集まっています。しかし、GIに関しては、防災・減災機能に関する技術的評価や維持管理、ガバナンスのあり方も含めて、課題や有効性について議論を深める必要があります。そこで、本シンポジウムでは、第一線の研究者を一堂に集め、最新の技術的知見や研究課題を共有し、土木技術と生態学の融合をめざす応用生態工学との接点を明らかにするとともに、課題解決に向けた方向性について議論を行い、今後の研究の進展と実事業への適用の出発点となることを目指します。

【公開シンポジウム プログラム】（同時通訳があります）

13:00 趣旨説明 風間 聡 教授（東北大学大学院工学研究科）

13:10 招待講演（同時通訳あり）

講演1 Kateryna M. Wowk 博士 米国海洋大気庁（NOAA）主席エコノミスト室上席社会科学官

講演2 島谷 幸宏 教授（九州大学大学院工学研究院）

15:30 パネルディスカッション

コーディネーター：風間 聡 教授（東北大学大学院工学研究科）

パネリスト：Kateryna M. Wowk 博士

島谷 幸宏 教授（九州大学大学院工学研究院）

古田 尚也（国際自然保護連合 シニア・プロジェクト・オフィサー）

諏訪 義雄（国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部海岸研究室長）

16:45 終了予定

3. 自由集会 等

7つの自由集会が開催されます。集会には所属学会によらず参加でき、事前申込は不要です。また、「河川砂防技術基準（調査編）をもとにした意見交換会」（会議）が開催されます。

A. 「応用生態工学ならではの魅力ある啓発・普及コンテンツとは？」

- ・企画：田代 喬（名古屋大学）
- ・日時：9月10日（木）09：30～11：30 7011教室
- ・内容：昨今、応用生態工学に関連する分野では、河川生態学、環境水理学など、多くの専門書が刊行されている。しかしながら、いずれも刊行部数は少数に限られ、重版されることは極めて少ないのが現状である。論文の多くが電子化され、洋書についてはE-Bookなどの発行形態が増えつつあり、さまざまなメディアファイルを関連付

けるなど、幅広い展開を見せているのに対し、日本語で書かれる専門書の多くは、冊子のみの発行に留まっている感がある。

学会の魅力を高める方法には、年次大会、機関誌の充実に加え、昨今では、IT やビジュアル表現などをフルに活用した関連情報の収集と発信であるとの指摘がある。企画者らは、IT 技術やビジュアル表現を駆使して作成された、視覚メディアによる啓発・普及コンテンツ、ならびに、これらを通じた研究成果のインタプリテーションと情報発信に興味と可能性を感じ、この集会を企画した。

本自由集会では、映像資料などのビジュアル表現を通じた生態的展示の先駆的な事例紹介、現状の学会 HP の来訪状況に関するアクセス解析などを踏まえ、応用生態工学ならではの魅力的な啓発・普及コンテンツを探る議論を行いたい。

- ・趣旨説明 (田代 喬 (名古屋大学))
- ・話題提供 1 : 河川生態のとらえにくさと視覚メディアの役割 (吉富友恭 (東京学芸大学))
- ・話題提供 2 : 河川教育の現場における動画の活用 (真田誠至 (アクア・トトぎふ))
- ・話題提供 3 : 水生生物のミクロな形態、ダイナミックな生態を伝える (渡辺友美 (早稲田大学))

<総合討論>

学会 HP 来訪状況のアクセス解析 (沖津二郎 (応用地質))

オーガナイザー 真田誠至 (アクア・トトぎふ) ・田代 喬 (名古屋大学)

B. 「自然の浄化機能を活かした水質浄化技術」

- ・企画：中野和典 (日本大学工学部)
- ・日時：9 月 10 日(木) 09 : 30~11 : 30 7012 教室
- ・内容：水や大気を清浄化する自然の浄化作用は、重要な生態系のサービスのひとつである。自然の作用は持続的であり、そのような自然の機能をうまく活用することが持続的な低炭素社会を実現するために不可欠であるといえる。人工湿地は、自然の湿地とは桁違いの水質浄化能力を付加することに成功した半自然的な污水处理システムであり、その技術革新により人工的な污水处理を半自然的な人工湿地に代替することが現実的になってきている。本自由集会では、わが国で実施している人工湿地の実証試験等の紹介を通して、自然の浄化機能を活かした水質浄化技術に関する最先端の知見を紹介する。

C. 会議「河川砂防技術基準（調査編）をもとにした意見交換会」（傍聴可）

- ・意見交換会メンバー

国土技術政策総合研究所	： 福濱水環境研究官, 中村圭吾主任研究官
土木研究所	： 萱場祐一上席研究員
土木学会環境水理部会	： 芝浦工業大学 宮本仁志 教授, 鳥取大学 矢島啓准教授, 山口大学 赤松良久 准教授
応用生態工学会	： 徳島大学 河口洋一 准教授, 名古屋大学 田代喬 准教授 東邦大学 西廣淳 准教授, 水源地環境センター中村敏一
- ・日時：9 月 10 日(木) 16 : 00~18 : 00 7011 教室
- ・主旨：国土交通省においては、平成 24 年 6 月に河川砂防技術基準（調査編）（以下、河砂基準）が改定されました。その総論には「新たな調査方法等の採用に当たっては、国土技術政策総合研究所等による関連情報の収集・調査等によるほか、学識者や関係者等の意見を聞くことにより最新の調査方法、技術的知見、課題等を把握する作業を定期的に行い、調査編の内容を見直すこと」としており、産官学の連携を通じた河川管理技術の向上が期待されています。

このたび、河砂基準の環境分野の記載が、最新の学術的・技術的水準および現場実務での活用実態・実績を踏まえたうえで、必要かつ十分なレベルで適宜改定されるよう学識者や関係者等と意見交換を行うことを目的として第 3 回意見交換会が開催されます。

※傍聴について：傍聴希望者は傍聴可能です。ただし、傍聴者のご発言はできません。

D. 「小さな自然再生が中小河川を救う！Ⅳ」

- ・企画：林博徳 (九州大) , 三橋弘宗 (兵庫県立大) , 原田守啓 (岐阜大)

- ・日時：9月10日(木)16:00~18:00 7012 教室
- ・内容：自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う！」は 2012 年より毎年開催され、各地の事例紹介や普及にむけた課題等について議論・整理を行ってきた。そして、これまでの成果は関係各位の尽力によって取りまとめられ、今年3月には小さな自然再生の事例集を発刊した。本事例集は、出来上がるまでの過程で、単なる事例の整理だけでなく、小さな自然再生の定義や進め方、普及へ向けた課題などについて様々な関係者間で議論を行い、非常に内容の濃いものにまとめられたと考えている。本自由集会では、この事例集の内容について紹介するとともに、これまで紹介されていない各地の事例発表を行い、今後さらに小さな自然再生の取り組みの裾野を広げていきたいと考えている。

E. 「未来の自然災害に向けて応用生態工学ができることは何か？：東日本大震災の後にどうする？どうなる？応用生態工学会」

- ・企画：久米学（国立遺伝研）・森誠一（岐阜経済大）・中村太士（北海道大）・西廣淳（東邦大学）
- ・日時：9月10日(木)16:00~18:00 7021 教室
- ・内容：東日本大震災から 5 年目を迎えて今なお復興は道半ばである。その過程において、環境アセスメントがなされないままに、復興事業は行われてきた。また、応用生態工学会に関しては会員各人の活動（研究を含む）に留まり、学会としての対応は後手にまわった感否めない。その一方で、近い将来に巨大地震が起きるとする予測が数多く出されている。さらに近年、局地的な集中豪雨に伴う土砂災害や洪水被害などの自然災害が立て続けに発生している。これらのような自然災害発生時は、応用生態工学会の存在意義が問われる場面の1つではなかろうか。それ故に、東日本大震災からの復興と同時に、近い将来起こるとされる巨大地震をはじめとする自然災害に備えて、“事前に何をしておくべきか”そして“事後に何をすべきか”，を整理しておく必要がある。そこで本集会では、東日本大震災の教訓を踏まえて、自然災害発生の事前・事後における応用生態工学会ができる対応について、幹事会における災害対応特命班での検討内容も含め議論したい。

<趣旨説明>：森誠一（岐阜経済大）

<事例報告>

1. 稲葉修（南相馬市博物館）：震災・原発事故後の生物、これから
一被災地域の自然と文化を守るためにー
2. 三浦一彦（大槌町役場）：復興事業の進展により見えてきた新しい課題
3. 西廣淳（東邦大学）：学会における災害対応の考え方とその手順

<総合討論>

司会：森誠一（岐阜経済大）

パネリスト：三浦一彦（大槌町役場）・稲葉修（南相馬市博物館）・樋村正雄（いであ）・久米学（国立遺伝研）・中村太士（北海道大）・西廣淳（東邦大学）

F. 「流域地質と山地河川の生態系」

- ・企画：田代喬（名古屋大学）・永山滋也（土木研究所）・一柳英隆（熊本大学）・皆川朋子（熊本大学）
- ・日時：9月10日(木)17:30~19:30 7013 教室
- ・内容：流域における表層地質は、斜面崩壊や土石流の発生機構を支配し、河川へ流出する水の量や化学的性質をも規定するとされている。そのため、生態系にも影響を及ぼすとされているが、現在のところ、その因果関係を陽的に明らかにした研究は国内外においてほとんど見当たらない。

企画者らは近年、九州、あるいは、東海のいくつかの山地河川を対象として、流域地質に起因して成立する生態系の各種過程を記載すべく、調査研究を継続してきている。本自由集会では、生態系のひとつの支配要因としての流域地質を理解するため、日本の地史、河川地形に関する背景的情報の整理を行ったうえで、山地河川の生態系の諸過程において流域地質の影響が顕著に表れている事例を紹介する。

総合討議では、流域地質と河川生態系の関係について、どこまで分かったか、どこに課題が残されているかを中心に議論を進めたい。なお、我が国の中小河川の多くは山地河川に位置づけられていることから、この種の整理が河川の維持管理に新たな視点を提供できるものと考えている。

<趣旨説明> 田代 喬（名古屋大学）

- ・イントロ：日本地史の紹介, 河川地形の分類 (永山滋也 (土木研究所))
- ・話題提供 1：地質-地形-魚類の関係 (永山滋也 (土木研究所))
- ・話題提供 2：石礫の性状と底生動物群集 (田代 喬 (名古屋大学))
- ・話題提供 3：地質の違う溪流での生物の生き方の違い：サワガニとカワネズミの事 (一柳英隆 (熊本大学))

＜総合討論＞「流域地質はいかに生態系を規定し得るか?：中小河川を巡る維持管理の視点含め」

オーガナイザー 皆川朋子 (熊本大学)・田代 喬 (名古屋大学)

コメンテーター 竹門康弘 (京都大学)

G. 「応用生態工学からダム管理を考える」

- ・企画：谷田一三 (大阪市立自然史博物館)・一柳英隆 (水源地環境センター)
- ・日時：9月11日(金)15:30~18:00 7011 教室
- ・内容：ダムでは、治水や利水などの目的のために様々な操作が行われる。放流量コントロール (それはダム湖内の水位にも影響する) に代表される操作は、ダム湖や下流の生態系に影響を与えると考えられる。この自由集会では、ダムの操作と生態系の関係を紹介し、操作自体をどのように生態系保全に活かすのか、操作上の制約の中でどのようにより良い生態系に導いていくかについて議論したい。

＜話題提供＞

- ・「ダム湖の外来魚防除とダム管理の水位操作」 (大杉奉功 水源地環境センター)
- ・「水位操作とエコトーンに発達する植生の生態的機能・外来種管理の限界」 (浅見和弘 応用地質株式会社)
- ・「ダム湖エコトーンの生物多様性と地形・水位管理」 (関島恒夫 新潟大学)
- ・「フラッシュ放流が河川・河畔域に与える影響評価」 (根岸淳二郎 北海道大学)
- ・「フラッシュ放流への期待と制約」 (天野邦彦 水源地環境センター)

コメント：現場から (山内尚也 三春ダム管理所)

ディスカッション (コーディネーター：谷田一三 大阪市立自然史博物館)

H. 「中小河川における多自然川づくり, 課題そして展望

ーテキスト刊行に向けた認識の共有を目指してー

- ・企画：萱場祐一 (土木研)・原田守啓 (岐阜大)
- ・日時：9月11日(金)15:30~18:00 7012 教室
- ・内容：テキスト刊行委員会では「河道内氾濫原の保全・再生」に続く号として、中小河川づくりを实践する上での基本的な知識と技術を網羅したテキストの執筆を企画しています。

ご存知のように、中小河川の川づくりは、平成 22 年に「中小河川に関する河道計画の技術基準」が通知、平成 23 年にこの解説本であるポイントブックⅢが発刊され、具体的な川づくりの方向性と方法が示されました。しかし、ポイントブックⅢは中流域を対象としており上流・下流域に関する知見に乏しいこと、その後の中小河川研究において幾つかの新しい知見が見出されたこと、そして、中小河川における多自然川づくりに関する基礎的な知識や技術を網羅した教科書が見当たらないことから、関連する知見と技術の体系化を図り、会員の皆さんと共有できるテキストの発刊を企画することとしました。

本集会では、中流域における最新の知見に加えて、中小河川の流域管理、山間地河道の川づくりに関する知見について話題提供して頂き、中小河川の多自然川づくりに関するこれからの方向性、技術的な課題や学術的な知見を整理し、川づくりに対する課題と展望について認識の共有化を図ります。また、本学会のテキストとして取りまとめる方向性について議論し、テキスト発刊の出発点にしたいと考えています。

中小河川に関わる多自然川づくりの技術論を体系的に議論する絶好の機会です。是非ご参加ください。

4. 賛助会員展示コーナー

賛助会員によるポスター展示のほか、開発機材・技術等の展示を行います。

場所：70 号館ロビー

期間：9月10日(木)~11日(金)

5. エクスカーション

① Aコース (三春ダム)

【企画のねらい】

三春ダムは郡山市に隣接した三春町に位置し、その洪水調節機能によりダム下流の災害リスク低減に大きく寄与するとともに、貯水池水位変動帯に関する様々な研究やオオクチバス・ブルーギルの防除の取り組みが行われている国の多目的ダムである。三春ダム貯水池における生態系研究のフィールドを訪ね、その取り組みについて学ぶ。

【日程・コース】

9月10日(木)	9:45	JR 東北本線「郡山駅」東口広場 出発
	10:15	三春ダム着、堤体、ダム下流還元土砂置場見学 蛇石川前貯水池下流 (水位変動域のヤナギ林) 蛇石川前貯水池 (ブルーギル産卵床の干し上げ試験箇所)
	12:15	田園生活観 (昼食)
	12:45	三春ダム発
	13:15	日本大学工学部正門着 (大会会場) 解散

※ 定員 20 名先着順とします。

※ 参加申し込みをされた方には、集合や移動、注意事項等の詳細を改めてお知らせします。

② Bコース (松川浦・仙台湾南部海岸)

【企画のねらい】

福島県沿岸および仙台湾南部海岸は、東日本大震災による地盤沈下と津波により海岸域の生態系に大きな変化が生じた。現在、防潮堤のほか海岸防災林・防災緑地などの復旧事業が急ピッチで進められる中、生物多様性保全のために震災前の貴重な干潟の復元、新たな干潟の創出などの生態系復元の取り組みが行われている。福島県の相馬市松川浦、新地町では海岸防災林・防災緑地の施工現場を訪れる。また宮城県仙台南部海岸では防潮堤工事現場、名取川河口の井土浦干潟周辺を訪れ、それぞれの震災復興、干潟、湿地の震災後の現状と生態系復元の取り組みについて学ぶ。

【日程・コース】

9月12日(土)	17:00	公開シンポジウム終了後、日大工学部からバスで移動
	18:30	いわき市湯本温泉 (宿泊)
	18:30	茶話会 (松川浦の生態系特性と生態系復元の取り組み) 講師：福島大学教授 黒沢高秀 (井土浦の干潟生態系の復元と生態系サービス) 講師：東北大学大学院教授 占部城太郎
9月13日(日)	8:15	いわき湯本温泉 出発 (常磐道経由)
	10:00-10:45	相馬市松川浦 (海岸防潮林造成事業を見学)
	11:15-12:00	新地町 (造成中の埤浜防災緑地を見学)
	12:35-13:15	昼食 (亘理町)
	13:45-14:30	仙台湾南部海岸の防潮堤防工事
	14:30-15:15	井土浦干潟 (名取川河口左岸)
	15:45	「仙台空港」着
	16:30	「仙台駅」東口バスプール解散

※ 定員 50 名先着順とします。

※ 参加申し込みをされた方には、集合や移動、注意事項等の詳細を改めてお知らせします。

6. 懇親会

懇親会は、第2日目 (9月11日 (金)) の口頭発表、自由集会の後、18:30 より同じ棟の70号館9階の多目的

ホールで行います。また毎回好評の「全国からうまいものを持ち寄る普及・連携委員会」コーナーも予定しておりますので、ぜひご参加ください。

【日時】

平成 27 年 9 月 11 日 (金) 18:30 から

【会場】

日本大学工学部キャンパス 70 号館 9 階多目的ホール

7. 参加申し込み方法

【申し込み先】

応用生態工学会ホームページの「参加申込フォーム」もしくはチラシよりお申込みください。申込期限は 8 月 25 日 (火)、参加費のお振り込み期限は 9 月 1 日 (火) です。

FAX・E-mail によるお申込は、『参加申込書』にご記入の上、下記までお申込ください。

FAX 宛先: 03-5216-8520 E-mail: koriyama_19th@ecesj.com

参加申込フォーム: http://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=annual_conEntry

【参加費】

〔1〕研究発表会

会員: 6,000 円, 非会員: 10,000 円, 学生(会員・非会員): 3,000 円。

※参加費には講演要旨集が含まれております。講演要旨集のみ希望の方は、1,500 円で販売しております。

※大学周辺には飲食店はなく、コンビニエンスストアのみです。平日は学食が営業していますが、土曜日は営業していませんので、別途 1,000 円でお弁当が用意できます。事前にお申し込みください。

〔2〕エクスカーション

① A コース (三春ダム)

正会員・賛助会員: 2,000 円, 非会員: 3,000 円, 学生(学生会員・非会員): 1,500 円
(いずれも昼食代 1,300 円を含む)

② B コース (松川浦・仙台湾南部海岸)

正会員・賛助会員: 4,500 円, 非会員: 6,500 円, 学生(学生会員・非会員): 4,500 円
(いずれも昼食代 1,000 円を含む)

※別途宿泊費 12,000 円(1 泊 2 食付)を各自でお支払いください。

〔3〕懇親会

正会員・賛助会員・非会員: 5,000 円, 学生(会員・非会員): 3,000 円

※懇親会への参加は当日でも可能ですが、人数を把握するため、できるだけ事前にお申し込みください。

【参加料振込先】

〔1〕郵便振替口座

口座番号: 00140-7-404275

口座名称: 応用生態工学会

〔2〕銀行振込口座

銀行名: 東京三菱銀行麹町中央支店

口座番号: (普通)1302920

〔口座名称〕 応用生態工学会 (オウヨウセイタイコウガクカイ)

8. お問い合わせ先

応用生態工学会事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405 号室

TEL: 03-5216-8401 FAX: 03-5216-8520

E-mail: koriyama_19th@ecesj.com

－ 会場へのアクセス・会場案内 －

【会 場】

日本大学工学部キャンパス 70号館

住所:福島県郡山市田村町徳定字中河原1

電話:024-956-8600 (代表)

URL: <http://www.ce.nihon-u.ac.jp/links/access.html>

＜交通＞

■ J R 東北新幹線

東京駅→郡山駅 (やまびこ号 80 分)

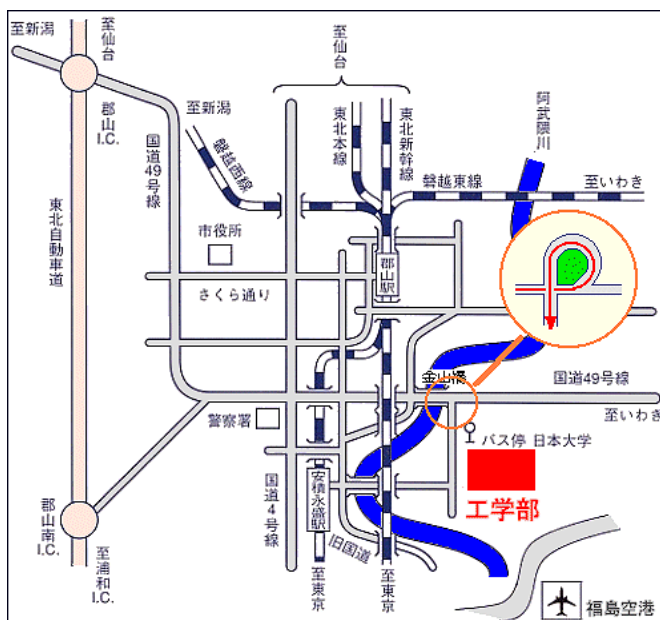
郡山駅 (3 番ターミナル) →日本大学下車(日大行バス 20 分)

■ J R 東北本線

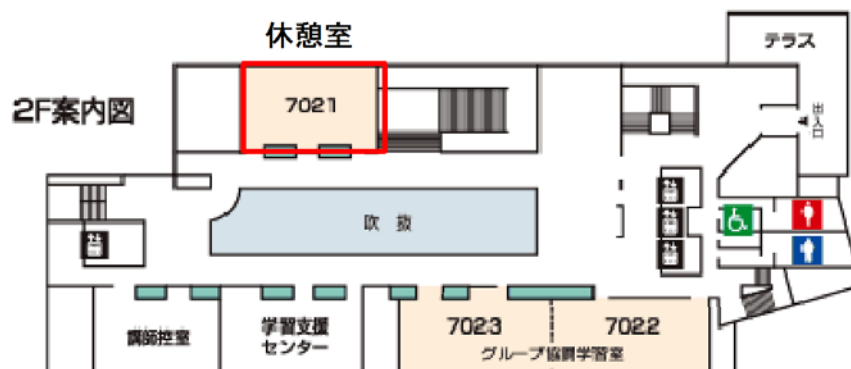
郡山駅→安積永盛駅下車 (徒歩 15 分)

■ タクシー: 郡山駅前タクシー乗り場より 20 分程度

■ 福島空港: 車で約 30 分



【日本大学工学部キャンパス 案内図】



－ プログラム・会場対応表 －

エクスカーション															
Aコース：三春ダム ※9:45JR郡山駅出発～13:15日大工学部着															
9月10日(木)	9:45	13:45													
9月10日(木)	9:00		7011教室(1F)160名	7012教室(1F)160名	7013教室(1F)160名	7014ホール(1F)164名	70号館1Fロビー	7021教室(2F)75名	7035	7036	事務局				
	9:30	11:30	自由集会 A.啓発・普及コ ンテンション	自由集会 B.水質浄化技術	自由集会	自由集会	ポスター・奨励 員展示準備	ポスター・奨励 員展示準備							
	11:30	12:30	普及・連携委員会 (11:30～14:00)	会誌編集委員会 (11:30～13:30)	自由集会	自由集会	ポスター・コアタイムA	ポスター・コアタイムB	自由集会	E.自然災害					
	12:45	14:15										自由集会	F.地質と河川生 態系	自由集会	E.自然災害
	14:15	15:45													
	16:00	18:00	会議	C.河川砂防技 術基準	自由集会	D.自然再生	自由集会	ポスター・奨励 員展示	自由集会	E.自然災害					
	17:30	19:30	自由集会	自由集会	自由集会	自由集会	自由集会	自由集会	自由集会	自由集会		自由集会			
エクスカーション															
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発															
9月12日(土)	18:30	—													
9月13日(日)	10:00	15:15													

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—									
9月13日(日)	10:00	15:15									

エクスカーション											
Bコース：茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	18:30	—	</								

— 研究発表会プログラム —

【研究発表会・一般講演内容(口頭発表)】

「※」発表者、タイトルの後の「研」は研究報告、「事」は事例報告

口頭発表 9月11日(金)ー2日目ー 9:30~15:00 [会場:7011教室(1F)]

セッションA 河床環境評価

- 9:30 OA-1 「石礫の輪郭形状からみた河床の生息場所環境と底生動物群集」:「研」
田代喬[※](名古屋大学)・岩田裕輝(同)・畔柳諒輔(同)・辻本哲郎(同)
- 9:45 OA-2 「水際部における物理指標の変化と河床材料の移動」:「研」
竹内洋介[※](東日本旅客鉄道(株)信濃川発電所業務改善事務所)・青木克憲(同)・柗本拓(同)
- 10:00 OA-3 「扇状地河川において河川内地形は砂礫性節足動物の分布を制限するか?」:「研」
渡辺のぞみ[※](北海道大学)・今井悠(同)・根岸淳二郎(同)・中村太士(同)
- 10:15 OA-4 「北海道十勝地方の森林流域における底生動物群集の縦断分布」:「研」
布川雅典[※](北海道大学)・渡辺のぞみ(同)・駒井克昭(北見工業大学)・長尾麻未(同)・中山恵介(同)
- 10:30 OA-5 「九州北部におけるイシガイ目二枚貝の分布とその生息環境」:「事」
林博徳[※](九州大学)・稲熊祐介(同)・大坪寛征(同)・島谷幸宏(同)
- 10:45 OA-6 「ガサガサで捕れる水生動物に基づく河川環境評価」:「研」
竹門康弘[※](京都大学)
- 11:00 OA-7 「矢作川における底生動物群集の多様性と攪乱ー中規模攪乱仮説は当てはまるか?」:「研」
内田臣一[※](愛知工業大学)

セッションB 河川管理

- 11:15 OB-1 「扇状地の中小河川における部分拡幅工法の有効性」:「研」
原田守啓[※](岐阜大学)・高岡広樹(土木研究所)・大石哲也(同)・萱場祐一(同)
- 11:30 OB-2 「エネルギーの地産地消とグリーンインフラー埼玉県での取り組みと将来展開の可能性ー」:「事」
藤野毅[※](埼玉大学)・勝山佑司(同)・飯嶋光幸((株)高橋製作所)・田島克己(秩父樹液生産組合)
- 11:45 OB-3 「「バープ」による河岸の防御と魚類の生息環境の創出」:「事」
渡辺恵三[※]((株)北海道技術コンサルタント)・岩瀬晴夫(同)・野村圭司(同)・小森友晴(北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部)・卜部浩一(北海道立総合研究機構さけます・内水面水産試験場)・泉典洋(北海道大学)

12:00~13:00 — 休憩 —

セッションH ダム下流

- 13:00 OH-1 「長期データで見るダム下流への置土が付着藻類の現存量に及ぼす効果」:「研」
宮川幸雄[※](土木研究所)・角哲也(京都大学)・竹門康弘(同)・小林草平(同)・萱場祐一(土木研究所)
- 13:15 OH-2 「ダム上流下流における流水性・止水性 生息場の底生動物群集と栄養起源の比較研究」:「研」
高橋真司[※](東北大学)・竹門康弘(京都大学)・大村達夫(東北大学)・渡辺幸三(愛媛大学)
- 13:30 OH-3 「ダム下流における既存適性値の適用可能性」:「研」
小野田幸生[※](土木研究所)・高木哲也(応用地質(株))・高岡広樹(土木研究所)・崎谷和貴(同)・藤森琢(同)・萱場祐一(同)
- 13:45 OH-4 「土砂供給が魚類の生息に及ぼす影響についてー実験河川における砂供給実験ー」:「研」
堀田大貴[※](土木研究所)・小野田幸生(同)・萱場祐一(同)
- 14:00 OH-5 「京都・宇治川で大発生するトビケラの食物起源とその流程変化」:「研」
小林草平[※](京都大学)・加藤義和(総合地球環境学研究所)・竹門康弘(京都大学)
- 14:15 OH-6 「排砂バイパスを有するダム下流における河床環境と底生動物群集」:「研」
栗津陽介[※](京都大学)・小林草平(同)・角哲也(同)・竹門康弘(同)
- 14:30 OH-7 「砂礫性節足動物に対するフラッシュ放流の影響評価:群集構造と機能の短期的応答」:「研」
今井悠[※](北海道大学)・三浦一輝(同)・渡辺のぞみ(同)・根岸淳二郎(同)・中村太士(同)

口頭発表 9月11日(金)ー2日目ー 9:30~15:00 [会場:7012教室(1F)]

セッションC 河川敷植生

- 9:30 OC-1 「Does sediment play a significant role on delaying the encroachment of riparian vegetation?」:「研」
Henegama Liyanage Kelum Sanjaya[※](埼玉大学)・Takashi Asaeda(同)
- 9:45 OC-2 「河川域における樹林の拡大と地形の関係」:「研」
宮脇成生[※]((株)建設環境研究所)・西廣淳(東邦大学)
- 10:00 OC-3 「河道内植生域での粒状有機物の堆積過程とそのモデル化」:「研」
尾花まき子[※](名古屋大学)・全浩成(韓国技術研究院)・辻本哲郎(名古屋大学)
- 10:15 OC-4 「河道内氾濫原における沈水植物群落の分布と成立条件」:「研」
片桐浩司[※](土木研究所)・池田茂(同)・大石哲也(同)・萱場祐一(同)

セッションD 水生植物

- 10:30 OD-1 「Effects of water turbulence and mean flow on plant growth and ultra-structures of aquatic macrophyte; /Elodea nuttallii(大型水生植物の超微細構造と植物の生長への水流と平均流量の影響/コカナダモ)」:「研」
Keerthi Sri Senarathna Atapaththu[※](埼玉大学)・Kimie Atsuzawa(同)・Yasuko Kaneko(同)・Takashi Asaeda(同)
- 10:45 OD-2 「Low oxygen induced oxidative stress to Chara australis R.Brown(シャジクモへの人為的な低酸素酸化ストレス)」:「研」
Mahfuza Parveen[※](埼玉大学)・Takashi Asaeda(同)・Md H. Rashid(同)
- 11:00 OD-3 「Effects of Shocked Heat Stress (SHS) on growth and Photosynthetic pigments of submerged Macrophyte; /Elodea nuttallii/(大型水生植物の光合成色素と成長への温度ストレスの影響/コカナダモ)」:「研」
Hendadura Chandani Chalanika De Silva[※](埼玉大学)・Takashi Asaeda(同)
- 11:15 OD-4 「Contribution of Arbuscular mycorrhiza to Pb tolerance of /Miscanthus sacchariflorus(樹枝状菌根の貢献による鉛耐性/オギ)」:「研」
Animesh Sarkar[※](埼玉大学)・Takashi Asaeda(同)・QingyueWang(同)・Yasuko Kaneko(同)・Md H. Rashid(同)
- 11:30 OD-5 「Pressure Induced Adverse Effects on Buoyancy Regulation of Fresh Water Cyanobacteria : Psudanabeana galeata and Microcystis aeruginosa」:「研」
H.D.L.Abeynayaka[※](埼玉大学)・K.Tanaka(同)・K.Atsuzawa(同)・Y.Kaneko(同)・T.Asaeda(同)

11:45~13:00 — 休憩 —

セッションI 魚類生息環境

- 13:00 OI-1 「Applying ecosystem based transfer factor of radiocesium (137Cs) for white-spotted char in a headwater stream: A case study in Osawa-gawa of Fukushima(源流河川のアメマスにおける生態系を基盤とした放射性セシウムの適用:福島県大沢川の事例)」:
「研」
Md. Enamul Haque[※](東京農工大学)・五味高志(同)・境優(中央大学)
- 13:15 OI-2 「航空写真を用いたアユの生息場ポテンシャル評価」:
「研」
三島康二[※](京都大学)・竹門康弘(同)・角哲也(同)・小林草平(同)
- 13:30 OI-3 「音響ドップラー流速計を用いたアユ降下仔魚調査法」:
「研」
村岡敬子[※](土木研究所)
- 13:45 OI-4 「河川水辺の国勢調査とランダムフォレストを組み合わせた外来魚種予測モデルの提案」:
「研」
城山理沙[※](東京工業大学)・吉村千洋(同)
- 14:00 OI-5 「試験施工等に基づくアユ産卵環境の予測・評価手法の提案」:
「研」
福井洋幸[※]((株)建設技術研究所)・北川照晃(同)・深草新(同)・大屋彩(同)・稲若孝治(中国地方整備局浜田河川国道事務所)・松尾至哲(同)
- 14:15 OI-6 「アミノ酸混和コンクリートによる付着藻類の生長特性の持続効果」:
「研」
川島大助[※](日建工学(株))・田中実(樺野川漁業協同組合)・西村博一(日建工学(株))・俵熊公子(同)・飯干富広(同)・福田鐘行(同)・青山大輔(同)・中西敬(同)
- 14:30 OI-7 「羽地ダム下流河川におけるリュウキュウアユについて」:
「研」
石水秀延[※](いであ(株))・鳥居高志(同)・根間秀昌(沖縄総合事務局北部ダム統合管理事務所)・備瀬知康(同)・立原一憲(琉球大学)
- 14:45 OI-8 「循環統計を用いた世界の主要河川での洪水・渇水発生時期と魚類種数の関係性の評価」:
「研」
山崎雅貴[※](東京工業大学)・梁政寛(同・スイス連邦水科学技術研究所)・吉村千洋(東京工業大学)・城山理沙(同)

口頭発表 9月11日(金) ー2日目ー 9:30～15:00 [会場:7013教室(1F)]

セッションE 保全対策

- 9:30 OE-1 「那覇空港滑走路増設事業における希少海藻類(クビレミドロ)の移植技術とその効果」:
「事」
平中晴朗^{*}(いであ(株))・鳥居高志(同)・金城健吾(沖縄総合事務局那覇港湾・空港整備
事務所)・大城直(同)
- 9:45 OE-2 「コウノトリ・トキの生息地再生活動に対する意識とエコロジカルマインド評価尺度の関係
分析-豊岡市、佐渡市、鴻巣市のアンケート調査-」:
「研」
川島秀男^{*}(埼玉大学)・深堀清隆(同)・浅枝隆(同)
- 10:00 OE-3 「兵庫県豊岡市の水田におけるトンボ類の生息状況ー農法による違いはあるのかー」:
「研」
丸山勇氣^{*}(兵庫県立大学)・佐川志朗(同)・田和康太(同)・内藤和明(同)
- 10:15 OE-4 「小石原川ダム周辺に生息するヤマネの巣箱利用と保全対策」:
「事」
村田裕^{*}(水資源機構)・中野春男(同)・大原基秀(同)・荒井秋晴(九州歯科大学)
- 10:30 OE-5 「減農薬と水田魚道によるサギ類への効果」:
「研」
夏原由博^{*}(名古屋大学)

セッションF 遺伝子解析

- 10:45 OF-1 「Gene-environmental-wide association using Next-Generation RAD-Seq(次世代RAD
シーケンシングによるゲノムワイド関連解析)」:
「研」
Maribet Gamboa^{*}(愛媛大学)・渡辺幸三(同)
- 11:00 OF-2 「水生昆虫ヒゲナガカワトビケラの上下流集団間の遺伝的分化と交雑」:
「研」
八重樫咲子^{*}(愛媛大学)・Michael T. Monaghan(The Leibniz-Institute of Freshwater
Ecology and Inland Fisheries)・大村達夫(東北大学)・渡辺幸三(愛媛大学)

セッションG 気候変動

- 11:15 OG-1 「河川平衡水温の経年変化に関する日本地図」:
「研」
宮本仁志^{*}(芝浦工業大学)・片桐弘晴(同)
- 11:30 OG-2 「水文モデルを用いた気候変動下の水生昆虫の適応的遺伝変動予測」:
「研」
糠澤桂^{*}(東北大学)・風間聡(東北大学)・渡辺幸三(愛媛大学)

11:45～13:00 ー 休憩 ー

セッション」 河口域干潟・干潟

- 13:00 OJ-1 「**宍道湖におけるヤマトシジミ漁獲量と水質**」:「研」
山室真澄[※](東京大学)・神谷宏(同)
- 13:15 OJ-2 「**Using remote sensing data for modeling mangrove propagule dispersal in Olango island, Cebu, Philippines. (リモートセンシングデータを使用したフィリピンセブ島オランゴ環礁のマングローブ胎生種子の散布モデル)**」:「研」
Dang Truong Giang[※](埼玉大学)・Takashi Asaeda(同)
- 13:30 OJ-3 「**九州北部の河川を対象とした汽水性貝類による河口域の生息環境評価**」:「研」
巖島怜[※](九州大学)・森田海(同)・島谷幸宏(同)
- 13:45 OJ-4 「**マングローブ胎生種子の形状や浮遊特性に基づく輸送モデル**」:「研」
古里栄一[※](埼玉大学)・T. Priyadarshana(ルフナ大学)・G.A.H.S. Chathuranga(ワヤンバ大学)
- 14:00 OJ-5 「**霞ヶ浦における粒子状物質の動態について**」:「研」
篠原隆一郎[※](国立環境研究所)・今井章雄(同)・霜鳥孝一(同)・高津文人(同)・佐藤貴之(同)・小松一弘(同)・富岡典子(同)・三浦真吾((株)武揚堂)
- 14:15 OJ-6 「**ハゼ類を指標にした河川汽水域の健全性評価とハビタットの劣化を引き起こす要因の解明**」:「研」
乾隆帝[※](山口大学)・竹村紫苑(総合地球環境学研究所)・赤松良久(山口大学)・鎌田磨人(徳島大学)

【研究発表会・一般講演内容(ポスター発表)】

「※」発表者、タイトルの後の「研」は研究報告、「事」は事例報告

ポスター発表 9月10日(木)ー1日目ー 12:45～15:45 [会場:70号館1Fロビー]	
12:45～14:15	コアタイムA(セッション末尾奇数番)
14:15～15:45	コアタイムB(セッション末尾偶数番)
セッションA 流域・地質	
PA-1	流域地質の影響はどこまで及ぶのか?ー魚類の流程分布を糸口にー:「研」 澤海人 [※] (九州大学)・川本朋慶(同)・鬼倉徳雄(同)
PA-2	地質の異なる菊池川支流間での河床間隙生物の群集構成比較:「研」 田中亜季 [※] (熊本大学)・笠原玉青(九州大学)・佐藤辰郎(同)・一柳英隆(熊本大学)・皆川朋子(同)
PA-3	九州中北部における流域地質と山地溪流の河床形態の関係:「研」 西田健人 [※] (九州大学)・佐藤辰郎(同)・島谷幸宏(同)
セッションB 物質循環	
PB-1	北海道十勝地方の森林流域における溶存有機物と栄養物質の動態解析:「研」 長尾麻未 [※] (北見工業大学)・駒井克昭(同)・中山恵介(同)・布川雅典(北海道大学)・渡辺のぞみ(同)
PB-2	農林地由来の栄養物質と溶存有機物の流出特性解析:「研」 笠間基 [※] (北見工業大学)・布川雅典(北海道大学)・駒井克昭(北見工業大学)・中下慎也(広島大学)・長尾麻未(北見工業大学)・中山恵介(同)
セッションC ダム・ダム下流	
PC-1	ダム上下流の生物群集および土砂移動からみた布目川における土砂還元の効果:「研」 堀江将徳 [※] (近畿大学)・片岡寛敬(同)・河内香織(同)
PC-2	ダムから流出したヘドロが魚類の酸素消費速度に与える影響:「研」 片岡寛敬 [※] (近畿大学)・光永靖(同)・鳥澤真介(同)・河内香織(同)
PC-3	ダムとオショロコマの生息環境の関係性:「研」 斎藤壮央 [※] (徳島大学)・竹川有哉(同)・河口洋一(同)・谷口義則(名城大学)・山城明日香(徳島大学)
PC-4	ダム湖が及ぼす流程方向における物質循環の変化:「研」 神崎東子 [※] (京都大学・弘前大学)・田村和也(弘前大学)・工藤誠也(岩手大学)・佐藤臨(同)・井上博元(同)・野田香織(弘前大学)・池田紘士(同)・中下留美子(森林総合研究所)・渡邊泉(東京農工大学)・東信行(弘前大学)

セッションD 河口域・干潟

- PD-1 **UAV-SfMおよびADCPを用いた干潟地形の高精度観測:「研」**
伊豫岡宏樹[※](福岡大学)・田井明(九州大学)・池畑義人(日本文理大学)・鶴崎賢一(群馬大学)・齋田倫範(鹿児島大学)・清野聡子(九州大学)
- PD-2 **河川水辺の国勢調査を用いた全国の河川汽水域の底生動物の出現状況と選好する地盤高の関係性:「研」**
前田義志[※](国土技術政策総合研究所)・中村圭吾(同)・鈴木宏幸(同)・甲斐崇(同)・服部敦(同)
- PD-3 **「河川水辺の国勢調査」による河川汽水域の生物多様性の地理的分布評価の試み-底生生物の主要4分類群の基準化種数を用いて-:「研」**
中村圭吾[※](国土技術政策総合研究所)・前田義志(同)・甲斐崇(同)・鈴木宏幸(同)・服部敦(同)
- PD-4 **ヤマトシジミの個体群動態と炭素固定機能:「研」**
野元あい[※](大阪府立大学工業高等専門学校)・大谷壮介(同)
- PD-5 **鳥類の飛来数データを用いた全国の河口域環境の類型化:「研」**
田辺篤志[※](熊本大学)・皆川朋子(同)
- PD-6 **七里長浜港建設後の砂浜海岸における生物組成の遷移について:「事」**
佐藤高広[※]((株)復建技術コンサルタント)・山本和司(同)・藤原悠太(同)・東信行(弘前大学)・川村昌弘(青森県西北地域県民局)
- PD-7 **津屋原沼における潮間帯生物生息場評価とこれを活かした防潮堤水際域の提案:「研」**
秋山秀樹[※](熊本大学)・皆川朋子(同)・田辺篤志(同)・増山晃大(同)・坂本誠吾(九州地方整備局宮崎河川国道事務所)・一柳貴紅子(パシフィックコンサルタンツ(株))
- PD-8 **河口ヨシ帯におけるCO2フラックスの季節変化:「研」**
鞠川純平[※](大阪府立大学工業高等専門学校)・川崎太輝(大阪市立大学)・大谷壮介(大阪府立大学工業高等専門学校)
- PD-9 **河口干潟における腹足類の炭素埋没量に関する研究:「研」**
大谷壮介[※](大阪府立大学工業高等専門学校)・石田達憲((株)エコー建設コンサルタント)・山中亮一(徳島大学)・上月康則(同)
- PD-10 **仙台湾東谷地干潟の生産分布:簡易閉鎖チャンバーを用いた解析:「研」**
尾崎隼斗[※](東北大学)・柚原剛(同)・鈴木孝男(同)・占部城太郎(同)
- PD-11 **沖縄本島億首川マングローブ林における更新立地の特性:「研」**
今井洋太[※](徳島大学)・竹村紫苑(総合地球環境学研究所)・鎌田磨人(徳島大学)
- PD-12 **沖縄本島億首川マングローブ林におけるモニタリングシステム構築に向けたカニ類の分布特性の把握:「研」**
竹村紫苑[※](総合地球環境学研究所)・乾隆帝(山口大学)・小山彰彦(九州大学)・和田恵次(奈良女子大学)・鎌田磨人(徳島大学)

セッションE 湿地・水田・氾濫原

- PE-1 **レーザ式変位センサを用いた「ボグの呼吸」の観測とそのモデル化:「研」**
山田浩之[※](北海道大学)・矢部和夫(札幌市立大学)
- PE-2 **コンクリート三面張り水路における微小な形状変化がイシガイ目二枚貝の生息に与える影響:「研」**
大坪寛征[※](九州大学)・林博徳(同)・島谷幸宏(同)
- PE-3 **湿地再生の可能性評価に向けた東京都内の散布体バンクの把握:「事」**
白土智子[※](東邦大学)・林紀男(千葉県中央博物館)・山ノ内崇志(東邦大学)・西廣淳(同)
- PE-4 **深泥池におけるトンボ幼生群集:構造決定におけるニッチフィルターと分散フィルターの役割:「研」**
山田紗友美[※](東北大学)・加藤義和(京都大学)・辻野亮(奈良教育大学)・竹門康弘(京都大学)・占部城太郎(東北大学)
- PE-5 **菊池川流域における河道の変化と河道内氾濫原水域の氾濫原依存種の生息場としての機能評価～氾濫原環境再生にむけた基礎研究～:「研」**
岡村麻矢[※](熊本大学)・上杉幸輔(同)・皆川朋子(同)
- PE-6 **湿地再生の可能性評価に向けた印旛沼低地排水路および休耕田における水生生物の分布の把握:「研」**
富田和宏[※](信州大学)・山ノ内崇志(東邦大学)・西廣淳(同)
- PE-7 **氾濫原湿地における陸生動物の出水時の垂直レフュージア:「研」**
富山雄太[※](九州大学)・林博徳(同)・島谷幸宏(同)

セッションF 河川環境評価

- PF-1 **長期流量データ解析による国内河川の攪乱レジームの評価:「研」**
吉村研人[※](愛媛大学)・赤坂卓美(帯広畜産大学)・三宅洋(愛媛大学)
- PF-2 **大和川の直線区間およびワンド区間における平水時の水理特性と生物の対応:「研」**
矢野貴史[※](近畿大学)・片岡寛敬(同)・赤尾大樹(同)・河内香織(同)
- PF-3 **河川整備計画における景観記述を通じた今後の河川景観マネジメントの課題整理:「研」**
鶴田舞[※](土木研究所)・萱場祐一(同)
- PF-4 **河川の落葉堆積によるカエルの越冬地提供とカエルの河川定着プロセス:「研」**
三浦一輝[※](北海道大学)・渡辺のぞみ(同)・根岸淳二郎(同)
- PF-5 **日本全国一級河川における河床の経時変化及び変化要因の探索:「研」**
尹衍棟[※](北海道大学)・根岸淳二郎(同)・中西哲(土木研究所)・永山滋也(同)・萱場祐一(同)
- PF-6 **手取川におけるヤナギ類実生の生育実態と生育立地の予測の検討:「研」**
今村史子[※](日本工営(株))・徳江義宏(同)・宇野哲平(同)・石尾将大(同)・高橋至(北陸地方整備局金沢河川国道事務所)
- PF-7 **佐波川における河川生態系モデルの開発:「研」**
河野誉仁[※](山口大学)・赤松良久(同)・永野博之(東京理科大学)・乾隆帝(山口大学)
- PF-8 **石礫床河川における効率的な河床環境調査手法の試行:「研」**
原田守啓[※](岐阜大学)・荒川貴都(同)・天野裕行(同)・大橋一弘(同)
- PF-9 **溪流地形における表流水の一時的伏流と河川間隙水域の環境の変動:「研」**
笠原玉青[※](九州大学)・Sun Haotian(同)
- PF-10 **複列砂州を内包する河原の成因と生態系基盤としてのその機能:「研」**
原田大輔[※](東京大学)・知花武佳(同)
- PF-11 **アユの産卵数の多い琵琶湖流入河川における河口地形の特徴:「事」**
東善広[※](滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)・水野敏明(同)
- PF-12 **佐波川における底生動物量の空間分布予測モデル～流れ場の環境変動に伴う生態系の変化が予測可能なモデルの構築を目指して～:「研」**
一松晃弘[※](山口大学)・赤松良久(同)・乾隆帝(同)
- PF-13 **石川県能登半島における絶滅危惧種カワヤツメ幼生の微生息場:「事」**
荒川裕亮[※](石川県立大学)・柳井清治(同)
- PF-14 **河川水辺の国勢調査データを用いた生息適地モデルによる河道掘削の評価:「事」**
川口究[※](いであ(株))・中原良一(同)・石垣宏(同)・白井耕平(九州地方整備局遠賀川河川事務所)
- PF-15 **矢作川中流部におけるヒゲナガカワトビケラとオオシマトビケラの生活史:「研」**
岡田和也[※](愛知工業大学)・内田臣一(同)
- PF-16 **矢作川水系におけるカワゲラ類水生昆虫の分布と河川環境:「研」**
藤本卓也[※](愛知工業大学)・内田臣一(同)
- PF-17 **市民に向けた河川生態の情報発信手法について～展示・模型を活用した河川で見られる現象の視覚化～:「事」**
真田誠至[※](世界淡水魚園水族館 アクア・トト ぎふ)
- PF-18 **自然共生研究センターのエントランス展示における情報整理と展示表現**
渡辺友美[※](早稲田大学)・萱場祐一(土木研究所)

セッションG 環境影響評価

- PG-1 **サケ科魚類オシロコマに対するダム設置による水温上昇の影響を熱ショックタンパク質(Hsp)で評価する:「研」**
倉橋彩百合[※](新潟大学)・鎌田泰斗(同)・関島恒夫(同)・竹川有哉(徳島大学)・谷口義則(名城大学)・河口洋一(徳島大学)
- PG-2 **ネコギギのハビタットモデルを用いた河川環境改善工法の開発と効果:「研」**
八神鉄彦[※](水源地環境センター)・大杉奉功(同)・高橋正信(中部地方整備局設楽ダム工事事務所)・松浦直(同)
- PG-3 **小水力発電に伴う山地溪流ハビタットの变化と底生動物への影響ー福岡県川付川の事例ー:「研」**
大山璃久[※](中部地方整備局木曽川下流事務所)・佐藤辰郎(九州大学)・一柳英隆(水源地環境センター)・島谷幸宏(九州大学)
- PG-4 **希少猛禽類に対する代替巢設置手法と繁殖利用状況:全国の道路事業の事例分析:「事」**
長谷川啓一[※](国土技術政策総合研究所)・上野裕介(同)・大城温(同)・井上隆司(同)
- PG-5 **環境影響評価における蝙蝠の調査方法に関する考察:「事」**
見上伸[※]((株)日立パワーソリューションズ)・高橋雅也(同)・福井聡(日本気象協会)・和田伸久(同)・魚崎耕平(同)・戸谷充雅(くろしお風力発電(株))

セッションH 自然再生

- PH-1 **兵庫県北部円山川におけるコウノトリの河川内周年利用:「研」**
佐川志朗[※](兵庫県立大学)・田和康太(同)・大迫義人(同)
- PH-2 **できることからはじめよう 水辺の小さな自然再生:「事」**
後藤勝洋[※](リバーフロント研究所)・和田彰((株)建設技術研究所)・三橋弘宗(兵庫県立大学)・原田守啓(岐阜大学)・林博徳(九州大学)
- PH-3 **津波を受けた仙台湾南部海岸における植生の自律的再生と人為的改変:「研」**
西廣淳[※](東邦大学)・南蒲生砂浜海岸エコトーンモニタリングネットワーク
- PH-4 **印旛沼の水草再生に向けて～発芽に対するヘドロの影響～:「研」**
館野太一[※](東邦大学)・林紀男(千葉県立中央博物館)・山ノ内崇志(東邦大学)・西廣淳(同)
- PH-5 **小河川のホットスポットが上下流の水生生物相に与える影響:「研」**
上國料昌哲[※](九州大学)・林博徳(同)・富山雄太(同)・島谷幸宏(同)
- PH-6 **上西郷川の自然再生事業に導入された情報共有ツールの役割:「事」**
吉富友恭[※](東京学芸大学)・龍舞子(同)・林博徳(九州大学)

セッションI 水質浄化

- PI-1 **花壇を利用した自然浄化システムの開発:「研」**
大附遼太郎[※](日本大学)・中村和徳(同)・中野和典(同)
- PI-2 **生態系機能を活かして水族園の水を浄化する実証実験:「事」**
松下太郎[※]((株)ウエスコ)・渡辺敏(同)

セッションJ 種の多様性

- PJ-1 **生物情報不要の河川生息場評価ソフトウェア DHABSIM:「研」**
関根雅彦[※](山口大学)・田部崇博(八千代エンジニアリング(株))
- PJ-2 **残存する草原の種多様性に対する過去の土地利用の影響～千葉県北部での検討～:「研」**
野田顕[※](東邦大学)・小林翔((株)水辺環境研究所)・山ノ内崇志(東邦大学)・近藤昭彦(千葉大学)・西廣淳(東邦大学)
- PJ-3 **野生絶滅前のコウノトリはどのような食性を示すのか?—炭素・窒素安定同位体比解析による検討—:「研」**
田和康太[※](兵庫県立大学)・佐川志朗(同)・三橋陽子(兵庫県立コウノトリの郷公園)
- PJ-4 **河川上流域の水生昆虫群集における現存量, 個体数密度, 種の豊富さと生物モニタリング指標の検討:「研」**
与世田信忠[※](大阪府立大学)・谷田一三(大阪市立自然史博物館)・平井規央(大阪府立大学)・石井実(同)

セッションK 外来種

- PK-1 **矢作川における外来水生植物オオカナダモ(*Egeria densa*)と流速、水深、底質との関係:「研」**
内田朝子[※](豊田市矢作川研究所)・白金晶子(同)・角野康郎(神戸大学)
- PK-2 **河川における農地・草地利用と外来植物群落の関係性～利根川下流域における検討～:「研」**
望月通人[※](東邦大学、(株)ブレック研究所)・宮脇成生((株)建設環境研究所)・萱場祐一(土木研究所)・西廣淳(東邦大学)
- PK-3 **特定外来生物ヒガタアシ(スパルティナ・アルテルニフロラ)の効果的な防除に向けた分布拡大モデルの作成:「研」**
花井隆晃[※]((株)テクノ中部)・秋江佳弘(名古屋工業大学)・増田理子(同)
- PK-4 **伊豆沼・内沼における電気ショッカーボートを用いたオオクチバスの駆除と空間分布の把握:「研」**
森晃[※](宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)・藤本泰文(同)・芦澤淳(同)・嶋田哲郎(同)

セッションL 遺伝子解析

- PL-1 **塩基配列コピー数平準化法によるメタゲノムを用いた種多様性評価の改善:「研」**
 福田航平[※](愛媛大学)・加藤幹男(大阪府立大学)・八重樫咲子(愛媛大学)・渡辺幸三(同)
- PL-2 **次世代シーケンシングとDNA種分類法を用いた河川底生動物群集の種多様性評価:「研」**
 泉昂佑[※](愛媛大学)・Maribet Gamboa(同)・三宅洋(同)・渡辺幸三(同)
- PL-3 **マイクロサテライトマーカーを用いたマニラのデング熱媒介蚊の遺伝子流動の評価:「研」**
 大岸航平[※](愛媛大学)・Thaddeus M. Carvajal(De La Salle University)・八重樫咲子(愛媛大学)・渡辺幸三(同)
- PL-4 **イタリアアルプス自然河川のトビケラ群集のDNA種分類法を用いた種多様性の解明:「研」**
 近藤俊介[※](愛媛大学)・八重樫咲子(同)・Michael T. Monaghan(ライプニッツ淡水生態学・内水漁業研究所)・竹門康弘(京都大学)・渡辺幸三(愛媛大学)
- PL-5 **リアルタイムPCRによるSNP解析を用いたオイカワ国内外来系統の判別:「研」**
 北西滋[※](岐阜大学)・清水孝昭(愛媛県農林水産研究所水産研究センター)・向井貴彦(岐阜大学)
- PL-6 **遺伝情報を活用した河川事業に関する評価法の研究:「研」**
 増本育子[※](中電技術コンサルタント(株))・山原康嗣(同)・安形仁宏((株)建設技術研究所)・太田宗宏(同)・村岡敬子(土木研究所)

セッションM 気候変動

- PM-1 **水生昆虫カワゲラ群集のトランスクリプトーム解析に基づく日本の気候勾配に適応的な遺伝子の検索分析:「研」**
 後藤友亮[※](愛媛大学)・Maribet Gamboa(同)・渡辺幸三(同)
- PM-2 **プロテオーム解析による日本の気候勾配に沿ったカワゲラ個体群の環境適応の解明:「研」**
 山野俊介[※](愛媛大学)・Maribet Gamboa(同)・渡辺幸三(同)

応用生態工学会 第 19 回郡山大会 開催案内

開催日時 平成 27 年 9 月 10 日 (木) ~ 9 月 13 日 (日)

日程 9 月 10 日 (木) エクスカーション A 【三春ダムコース】 (午前)

研究発表会 ポスター発表, 自由集会

9 月 11 日 (金) 研究発表会 口頭発表, 自由集会, 懇親会

9 月 12 日 (土) 総会 (午前), 公開シンポジウム (午後)

9 月 13 日 (日) エクスカーション B 【相馬松川浦・仙台湾南部海岸コース】

会場 日本大学工学部 70 号館 (福島県郡山市)

本大会は, 土木学会継続教育 (CPD) プログラム認定に申請予定です。

●申し込み及び問合せ先

応用生態工学会事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5

麹町ロイヤルビル 405 号

TEL: 03-5216-8401 FAX: 03-5216-8520

E-mail: koriyama_19th@ecesj.com

【大会実行委員長: 占部城太郎 (東北大学教授)】

参加申し込み (研究発表会・総会・エクスカーション)

参加申込書 (裏面) に必要事項を記入の上、右記へファックスしてください。URL の申し込みフォームでも受け付けます。

詳細は裏面をご参照ください。

公開シンポジウム「生態系機能を活用した減災/防災/復興」

＜日時＞平成 27 年 9 月 12 日 (土曜日) 13:00~16:30

＜場所＞日本大学工学部 70 号館 7014 (大ホール)

＜開催主旨＞

復興・防災・減災事業では、地域の自然環境・生態系ネットワークを適正に保全・管理する必要があり、それを実現する手段として、近年、多様な生態系を重要な社会基盤とみなすグリーンインフラストラクチャー (GI) の考え方に注目が集まっている。しかし、GI に関しては、防災・減災機能に関する技術的評価や維持管理、ガバナンスのあり方も含めて、課題や有効性について議論を深める必要がある。そこで、本シンポジウムでは、第一線の研究者を一同に集め、最新の技術的知見や研究課題を共有し、土木技術と生態学の融合をめざす応用生態工学との接点を明らかにするとともに、課題解決に向けた方向性について議論を行い、今後の研究の進展と実事業への適用の出発点となることを目指します。

＜プログラム＞

13:00 開会 趣旨説明 風間 聡 教授 (東北大学大学院工学研究科)

13:10 招待講演 (同時通訳あり)

講演 1 Kateryna M. Wowk 博士

米国海洋大気庁 (NOAA)

主席エコノミスト室上席社会科学官

講演 2 島谷幸宏 教授 (九州大学大学院工学研究院)

15:30 パネルディスカッション

コーディネーター: 風間 聡 教授 (東北大学大学院工学研究科)

パネリスト: Kateryna M. Wowk 博士

島谷幸宏 教授 (九州大学大学院工学研究院)

古田 尚也 (国際自然保護連合 シニア・プロジェクト・オフィサー)

諏訪 義雄 (国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部海岸研究室長)

16:45 終了予定

(写真は井土浦干潟)



Our Life, with River

河川整備基金

公益財団法人河川財団による

河川整備基金の助成を受けています

一般社団法人東北地域づくり協会の「みちのく国づくり支援事業」として支援を受けています。

協賛: (一社) 東北地域づくり協会

後援: 国土交通省東北地方整備局, 環境省東北地方環境事務所, 福島県, 郡山市, (公財) 河川財団,

(公社) 土木学会東北支部, (一社) 建設コンサルタント協会東北支部, 東北環境アセスメント協会

会場と交通 (研究発表会・懇親会・公開シンポジウム)

日本大学工学部キャンパス 70号館

〒963-8642 福島県郡山市田村町徳定字中川原1

TEL 024-956-8600 (代表)

<http://www.ce.nihon-u.ac.jp/links/access.html>

■JR東北新幹線

東京駅→郡山駅 (やまびこ号 80 分)

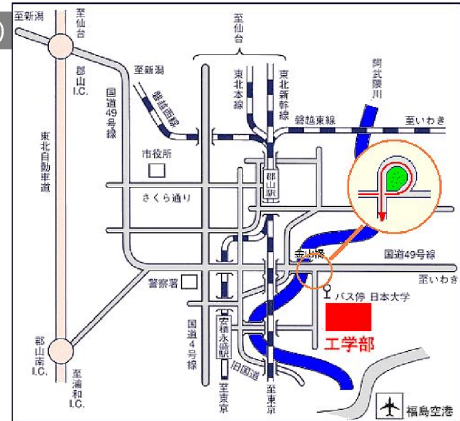
郡山駅→日本大学下車 (日大行バス 20 分)

■JR東北本線

郡山駅→日本大学下車 (日大行バス 20 分)

安積永盛駅下車 (徒歩 15 分)

■福島空港: 車で約 30 分



参加費 (研究発表会・懇親会・エキスカーション)

【研究発表会】 会員:6,000円、非会員:10,000円、学生(学生会員・非会員)3,000円

参加費には発表講演集代が含まれております。発表講演集のみ希望の方は、3,000円で販売しております。

※平日は学食が営業していますが、土曜日は営業していませんので、別途1,000円でお弁当の用意ができます。

参加申込みと同時に申し込みください(周辺にはコンビニエンスストアしかありません)。

【エキスカーション】(詳細はHPに掲載)

① Aコース(三春ダム): 定員20名先着順

正会員・賛助会員:2,000円、非会員:3,000円、学生(学生会員・非会員):1,500円・・・(昼食代1300円を含む)。

② Bコース(松川浦・仙台湾南部海岸): 定員50名先着順

正会員・賛助会員:4,500円、非会員:6,500円、学生(学生会員・非会員):4,500円・・・(昼食代1000円を含む)。

※別途宿泊費(1泊2食付)12,000円を各自でお支払いください。

【懇親会】 正会員・賛助会員・非会員:5,000円、学生(3,000円)

※当日の参加も可能ですが、人数を把握するためできるだけ事前にお申し込みください。

参加費振込先 (研究発表会・懇親会・エキスカーション)

郵便振替口座

口座番号:00140-7-04275

口座名称:応用生態工学会

銀行振込口座

銀行名:東京三菱銀行麹町中央支店

口座番号:(普通)1302920

口座名称:応用生態工学会(オウヨウセイタイコウガクカイ)

参加申込書 (研究発表会・懇親会・エキスカーション)

申込締切り:2015年8月25日(火)迄
振込締切り:2015年9月1日(火)迄

http://www.ecesj.com//contents/event/conference/19th/19th_1st_callforpaper.html

FAX:03-5216-8520 E-mail:koriyama_19th@ecesj.com ※E-mailの場合はPDF等で送付願います。

(ふりがな) 氏 名				会員No.(正・学生・賛助)	
所 属					
連絡先 (自宅・所属 いずれかに○)	〒 住所				
	TEL	e-mail:			
参加申込		参加費(必要箇所)✓			
研究発表会 (発表講演集代込)	9月10日(木)~11日(金)	参加・不参加	☐ 会員(6,000円) ☐ 非会員(10,000円) ☐ 学生会員(3,000円)		
懇親会	9月11日(金)	参加・不参加	☐ 会員・非会員(5,000円) ☐ 学生(3,000円)		
エキスカーション	Aコース:三春ダム(10日)	参加・不参加	☐ 会員(2,000円) ☐ 非会員(3,000円) ☐ 学生(1,500円) 昼食代(1,300円)含む		
	Bコース:松川浦・仙台湾南部 (12日~13日)	参加・不参加	☐ 会員(4,500円) ☐ 非会員(6,500円) ☐ 学生会員(4,500円) 昼食代(1,000円)含む。別途宿泊費(1泊2食)12,000円を徴収します。		
屋食の注文	9月10日(木)分	必要・不要	☐ 必要(1,000円)		
	9月11日(金)分	必要・不要	☐ 必要(1,000円)		
	9月12日(土)分	必要・不要	☐ 必要(1,000円)		
研究発表会に参加しないが、発表講演集のみ希望 (研究発表会に参加される方は研究発表会参加費に発表講演集代が含まれています。)			3,000円(送料込) × 部		
参加費の合計			合計 円		
連絡事項	請求書を希望する場合は「請求書希望」と記載してください。				

4 次期役員募集・推薦委員会報告

次期役員募集・推薦委員会

委員長：谷田一三会長

委 員：山岸 哲元会長

近藤 徹前会長

本年度は役員改選年であり、本年 6 月 1 日から 6 月 30 日までの期間で、次期役員候補の募集を行いました。

この結果、募集期間内に会長候補 1 名、副会長候補 3 名、理事候補 13 名、監事候補 2 名の計 19 名の届け出がありました。

これを受けて、7 月 6 日に第 2 回次期役員募集・推薦委員会を開催し、届け出のあった 19 名全員を候補に推薦することを決定しました。また、理事候補については、候補者が定員に満たなかったことから、7 月 29 日に第 3 回委員会をメール会議にて開催して候補者 2 名を推薦し、合計 21 名の役員候補を推薦しましたのでご報告します。

+++++

〔次期会長候補：1 名〕（敬称略）

辻本 哲郎（新任） 名古屋大学名誉教授

〔次期副会長候補：3 名〕（再任・新任の順、五十音順、敬称略）

虫明 功臣（再任） 東京大学名誉教授

江崎 保男（新任） 兵庫県立大学大学院教授

國井 秀伸（新任） 島根大学汽水域研究センター教授

〔次期理事候補：15 名〕（再任・新任の順、五十音順、敬称略）

甲村 謙友（再任） 独立行政法人水資源機構理事長

島崎 由美（再任） いであ株式会社内部統制本部本部長代理

清水 義彦（再任） 群馬大学教授

角 哲也（再任） 京都大学防災研究所教授

関 克己（再任） 公益財団法人河川財団理事長

関島 恒夫（再任） 新潟大学大学院准教授

成田 賢（再任） 応用地質株式会社代表取締役社長

風呂田利夫（再任） 東邦大学名誉教授

渡辺 綱男（再任） 一般財団法人自然環境研究センター上級研究員

渡邊 康玄（再任） 北見工業大学教授

大森 浩二（新任） 愛媛大学沿岸環境科学研究センター准教授

萱場 祐一（新任） 国立研究開発法人土木研究所水環境研究グループ河川生態チーム上席研究員

木内 啓（新任） 株式会社建設技術研究所東京本社副本社長

森北 佳昭（新任） 一般財団法人水源地環境センター理事長

山室 真澄（新任） 東京大学大学院教授

〔次期監事候補：2 名〕（再任・新任の順、五十音順、敬称略）

西 浩司（再任） いであ株式会社国土環境研究所生物多様性計画部部长

久保田 勝（新任） 東北電力株式会社顧問

5 学会規約細則が改正されました

応用生態工学会では、役員のうち会長、副会長、理事及び監事の選出にあたっては、役員改選年ごとに次期役員募集・推薦委員会を設置し、この委員会において立候補者の募集、候補者の推薦を行ってきています。

次期役員募集・推薦委員会は「次期役員募集・推薦委員会規程」に基づいて設置されていますが、この「次期役員募集・推薦委員会規程」が学会規約や学会規約細則には規定されていない状態にありました。

このため、第 77 回理事会（本年 6 月 18 日開催）において、学会規約細則の改正について審議を行い、次のとおり「役員の選出」に関する条項を追加する改正を行いました。

（役員の選出）

第 5 条 規約第 11 条第 1 項、第 12 条第 1 項および第 14 条第 1 項に規定する会長、副会長、理事および監事の選出にあたっては、別に定める次期役員募集・推薦委員会規程に基づいて次期役員募集・推薦委員会を設置し、立候補者の募集、候補者の推薦を行うものとする。

なお、改正された学会規約細則は本年 6 月 18 日から施行されています。

学会規約細則の全文については、学会ホームページ http://www.ecesj.com/contents/guid_agreement.html にてご確認ください。

6 会誌の投稿規程が改訂されました

会誌「応用生態工学」刊行関係の規程類としては、会誌刊行規程、会誌投稿規程、会誌校閲規程、会誌編集委員会内規の 4 つの規程があります。

このうち、会誌刊行規程を除く 3 つの規程が、本年 5 月 12 日開催の会誌編集委員会、6 月 18 日開催の第 77 回理事会における審議を経て、改訂されました。

会誌投稿規程、会誌校閲規程の改訂については本年 6 月 18 日から、また、会誌編集委員会内規の改訂については本年 5 月 12 日から、それぞれ施行されています。

会誌投稿規程では、主に次のような改訂が行われました。

- ・「原著論文」の投稿資格について、これまでは第 1 著者は会員（正会員と学生会員）に限られていましたが、これに加えて、正会員が責任著者（校閲への対応者：corresponding author）である場合も投稿可となりました。

これに伴い、報文原稿の表題ページにおいては、これまでの連絡対応著者に代えて、責任著者の氏名等を記載することになりました。

- ・「レポート」の制限ページ数が、2 ページ以内から 4 ページ以内に変更されました。
- ・報文の著者は、別刷りに加えて、電子ファイルも無料で受け取れることが記載されました。
- ・J-STAGE での論文公開について、非会員への公開時期（発刊後 2 年経過した時点）が記載されました。

また、会誌編集委員会内規の改訂では、編集委員会に編集幹事会を置き、編集事務の運営を行うこととなりました。なお、編集幹事会は、編集委員長が指名する編集委員で構成されます。

会誌刊行関係規程類の全文については、学会ホームページ

<http://www.ecesj.com/contents/journal/ece-regulation20150618.pdf> にてご確認ください。

7 理事会報告

7-1 第 77 回理事会報告

第 77 回理事会が、2015 年 6 月 18 日に千代田区麹町の弘済会館において開催された。

(1) 報告事項

主な報告事項は次のとおり。

① 会誌編集委員会報告

- ・会誌の査読作業については、査読日数が 100 日を切るように改善され、年間 30 件が達成できる見込みである。
- ・投稿促進策として、大会発表論文からピックアップし、会誌投稿を促す仕組みを構築すること、また、英文誌 IEE に掲載された論文を日本語の「総説」として整理して掲載することを検討中である

② テキスト刊行委員会報告

- ・テキストのシリーズ第 1 号「氾濫原環境の保全と再生」は、今秋の発刊を目途に執筆を進めている。
発行部数は 1,000 部とし、大学の講義、国土交通省の研修、河川管理者・コンサルタント向けの研修会等での活用を検討している。
- ・シリーズ第 2 号以降の刊行計画について、次の意見があった。
河川以外の分野も取り上げて、自然再生など、シリーズとして幅のある内容にできないか。
執筆体制が整ったタイトルから順次発刊していくのが良い。
シリーズ第 1 号はかなり厚いものとなっている。薄くして、タイムリーな内容で構成していけばどうか。

③ 国際交流委員会報告

- ・海外学会等への派遣者の募集にあたっては、対象者を学生あるいは 35 才未満の研究者・技術者としているが、現在の選考基準では業績面から研究者が有利となっており、海外経験の少ない学生への支援を重視すべきとの意見もあり、来年度の公募に向けて委員会で議論する。
- ・国際交流委員会報告に関連して、渡邊康玄理事から、2018 年に開催される International Symposium on Ecohydraulics (ISE 2018) への協力要請があった。ISE 2018 は、2018 年 8 月下旬に日大駿河台キャンパスにて開催予定。
応用生態工学会では、第 72 回理事会（2014 年 8 月 22 日開催）において、ISE 2018 に協力していくことを確認しているが、今後、共催（大会実行委員会との共催）の取り扱い、セッションへの参加など、具体的な対応について、幹事会・理事会で審議していく。

④ 土木学会等と協力する災害調査協力の枠組み

- ・水害時の調査に関する応用生態工学会としての取り組みについて検討するため、竹林幹事（土木学会水工学委員会水害対策小委員会幹事長）からの提供情報（土木学会水工学委員会の水害調査との協力）について、幹事長から報告があった。
- ・水害時の調査については、土木学会水工学委員会の水害調査に参画する方向を指向することとし、対応体制、調査予算の確保などの具体策について、幹事会で検討を進める。
なお、水害以外の大規模災害に対しては、第 74 回理事会（2015 年 2 月 3 日開催）において審議した「大規模災害に対する対応の考え方」での意見を踏まえて、引き続き検討を進める。

⑤ 島根大学汽水域研究センター長からの要望書依頼への対応

- ・島根大学汽水域研究センターが閉鎖性水域学際研究拠点として文部科学省に新規認定申請を行うにあたって、汽水域研究センター長から要望書提出の依頼があり、これに対して、会長・副会長間で協議し、本年 5 月 24 日付けにて谷田会長名での要望書を提出した。

(2) 審議事項

次の 4 件について審議が行われた。

① 2014 年度決算報告

- ・幹事長から、2014 年度決算について説明があった。
- ・収支差額は 3,395,373 円の黒字であり、その要因としては、支出が大きく減少したことによる。
支出の大幅減額は、会誌編集費において論文数が予定を下回り、印刷費などで約 100 万円の減、テキスト刊行費として予定していた編集経費 80 万円が不要になったこと、会議費、委員会活動費において工夫、節減がなされたことによる。
- ・審議の結果、2014 年度決算は了承された。

② 第 4 次中期計画の策定

- ・幹事長から、「応用生態工学会第 4 次中期計画（案）」について説明があった。
- ・審議においては、次の意見があった。
河川分野以外の分野への拡大を図っていく必要がある。その方策として、3 学会合同大会（ELR）と英文誌 LEE は重要である。
活動内容（アクションプラン）の具体化・実施にあたって、環境行政との連携を強化していきたい。
水循環健全化の視点も盛り込みたい。
応用生態工学会はフィールドを基盤とした学会であり、現場には、水循環、生物多様性、インフラの整備あるいは劣化など、様々な課題が存在する。
これらの意見を包括した「理事会コメント」を付して、「応用生態工学会第 4 次中期計画（案）」を本年 9 月開催の第 19 回総会において審議事項として提案することが了承された。
- ・それぞれの活動内容（アクションプラン）について、第 4 次中期計画のスタート時点から達成度を評価し、進捗管理を図っていくことが確認された。

③ 学会規約細則の改正

- ・学会規約細則の改正について審議が行われた。
詳細については、このニュースレターの 31 ページをご覧ください。

④ 会誌投稿規程、会誌校閲規程、会誌編集委員会内規の改訂

- ・会誌関係規程類の改訂について審議が行われた。
詳細については、このニュースレターの 31 ページをご覧ください。

8 行事開催案内

8-1 応用生態工学会 2015 年度国際シンポジウム 開催案内

応用生態工学会 2015 年度国際シンポジウム 流域・沿岸におけるグリーンインフラの概念と方法論 ～ 応用生態工学の今後の展開を考える ～

【開催趣旨】

自然環境管理では生態系の保全や再生が重要ですが、一方で自然生態系を上手く組み込み、その自然のプロセスを活かしてインフラとしての機能を持たせるグリーンインフラという考え方が提唱されています。工学と生態学の学際領域で展開しつつある応用生態工学は、このグリーンインフラの考え方や親和性が高いため、本分野ではグリーンインフラをキーワードとする新たな発展が期待できます。そこで、本学会では“グリーンインフラの概念と方法論”を整理した上で、河川ネットワークと沿岸域における生態系管理の今後の展開を議論することを目的とし、水域の環境管理に関する専門家である Kateryna M. Work 博士（アメリカ海洋大気庁（NOAA））および国内の専門家をご招待して、国際シンポジウムを開催します。自然環境管理では生物多様性の保全、防災・減災、気候変動対応など多面的な対策が必要となる中、グリーンインフラの概念と方法論を議論することで、より良い自然環境管理を議論する機会としたいと考えています。

■日 時：平成 27 年 9 月 13 日（日）13:00～17:00

■場 所：東京工業大学くらまえホール（東京都目黒区大岡山 2-12-1）

最寄駅「大岡山」駅（東急目黒線、東急大井町線）より徒歩 1 分

■参加費：500 円（資料代）※当日、受付で徴収します。

懇親会費（参加者のみ）：一般 5000 円、学生 1000 円

■プログラム：（逐次通訳あり）

◇第一部 グリーンインフラの概念とは

基調講演 岩浅有記 国土交通省 国土政策局 総合計画課 国土管理企画室 専門調査官

特別講演 Kateryna M. Work（アメリカ海洋大気庁（NOAA） 社会科学専門官）

◇第二部 グリーンインフラの方法論（事例紹介）

講演 中村太士 北海道大学大学院農学研究院 教授

講演 坂巻隆史 東北大学災害科学国際研究所 准教授

◇第三部 応用生態工学におけるグリーンインフラの展開

パネルディスカッション

※終了後、懇親会あり（17:30～19:30、含 学生のポスター発表）。

会場：東京工業大学大岡山キャンパス内（予定）



■申込方法

氏名、所属、連絡先、懇親会参加の有無について、E-mail または Fax で下記までお申込みください。

応用生態工学会東京事務局 担当：久保市

E-mail : iec_symposium@ecesi.com

Fax : 029-851-6552

(TEL:029-851-6958 (応用地質株式会社内))

主催 応用生態工学会 国際交流委員会

共催 応用生態工学会東京 / 後援 建設コンサルタンツ協会関東支部（予定）

※（一社）建設コンサルタンツ協会の継続教育（CPD）プログラムとして認定されています（4 単位）。（予定）

8-2 応用生態工学会札幌セミナー 開催案内

H27年度 セミナー 8/17(月) 開催 参加者 募集!!

2015年8月17日(月) 応用生態工学会札幌セミナー 『本来の川を取り戻すために…その10』

河川地形の 成り立ちと 予測

～イメージ化と数値化の手法

主催：応用生態工学会札幌
共催：北海道立環境土木研究所
財研会
協办：札幌市豊平区立科学館
北海道大学大学院工学研究院

応用生態工学会は、『本来の川を取り戻すために…』と題したセミナーを開催し続け、今年で10年になります。平成18年よりセミナーへ池田宏さんをお招きし、手作りの「水路実験」や現地見学を行ってきました。実験では、水と土の流れや河川地形の成り立ち、川で起こっている現象を分かりやすく解説いただき、川への理解を深めてきました。

今年は、池田宏さんとゲーリー・パーカーさんに「次世代に語り継ぎたいこと」と題して基調講演いただきます。また、近年ではコンピューターによる河床変動の予測(シミュレーション)が現場でも活用されはじめています。そこで、河床変動計算の河川環境分野への期待、シミュレーションソフト「IRC」の概要から活用事例の紹介、今後の展望を各講師に基調提供いただきます。さらに、「IRC」の少人数制の講習会、併催の池田さんの水路実験や、「私たちが水路実験をやってみよう!」を企画しました。

①午前の部：水路実験とIRCによる水理解析(初級) 「水制まわりの流れ場の再現」

札幌市豊平区立科学館(演習館、豊平)／札幌市南区真駒内公園内
[地下鉄真駒内 徒歩25分]※駐車場:真駒内公園(無料)

●10:30～12:30 (10:00～受付開始)

久加 朋子 さん(北海道大学大学院工学研究院、IRC研究会)

(内容) 手作りの小規模水路にて水制まわりの流れを観察し、IRCのNays2DHを用いて再現計算を行います(初級)。ノートパソコンとマウスをお持ち下さい。

※PC: 推奨されるパソコンスペック / 必須: Windows 7 Service Pack 1 相当以上、CPU: Intel Core i5 相当以上、メインメモリ: 2GB以上、グラフィックチップ: NVIDIA GeForce GT 520 相当以上、1GB以上、LAN 有

②午後の部：セミナー 13:00～17:30

南区市民センター(区民ホール)／札幌市南区真駒内車道2丁目2-1
[地下鉄真駒内 徒歩7分]

司会進行／船木 淳悟 (専攻土木研究所専攻河川チーム上席研究員)

●13:00～ 挨拶／講演者の紹介
中村 太士 (応用生態工学会札幌代表／北海道大学大学院農学研究院教授)

●基調講演 『次世代に語り継ぎたいこと その3
～河川地形を見る目を磨いて、本来の川を取り戻そう』
13:05～13:45
池田 宏 さん(元筑波大学水理実験センター)

13:45～14:25
Gary Parker (ゲーリー・パーカー) さん
(イリノイ大学土木環境学教授、地質学教授、北海道大学大学院工学研究院特別教授)

●14:25～14:35 休憩

●14:35～16:35 講演(各40分)
「カワシラジグの生態環境と河床環境、そして、河床変動計算への期待」
照井 慧 さん(北海道大学大学院農学研究院学術研究員)

「IRCによるコンピューター河川工学への挑戦」
清水 康行 さん(北海道大学大学院工学研究院教授、IRC研究会)

「中川川における河床変動、設計の活用に向けた河川環境シミュレーション」の導入とその展望
大石 哲也 さん(国研土木研究所自然共生研究センター主任研究員)

●16:35～16:45 休憩

●16:45～17:25 総合討論(全席席)
「水路実験とシミュレーションを用いた生態環境評価と川づくりへの試み」
(司会:久加 朋子さん)

●17:25～ 挨拶／閉会
七澤 馨 (専攻土木研究所専攻河川)

③懇親会 18:00～20:00(予定)

会費 4,000円程度/一人

場所: 南区地下鉄真駒内駅周辺の居酒屋を予定しています。お気軽にご参加下さい。 ※会費は当日お支払い下さい。

参加費 ①のみ 5,000円 ②のみ 3,000円(学生500円)

①+② 8,000円 ※全て懇親会費別途

④オプション 2,000円(学生500円)

定員: ①25名 ②200名 ④50名

※先着順です。定員に達し次第締め切る場合がございます。

参加申込: Webフォーム または E-mail

※手とは異なりますが、事務の効率化のため上記の受付とさせていただきます。

Webフォーム → <http://form.es7.biz/f/43d4123c/>

E-mail 申込 → sapporo.nakamuraken@gmail.com 中島 夕里

申込締切 8/10(月)

④オプション 8月18日(火) 10:30～15:00

場所: 札幌市豊平区立科学館

⑤「河川地形の成り立ちを水路実験で探ろう」
講師: 池田 宏さん

⑥「私たちが水路実験をやってみよう!」

例えば、
・土砂の移動量や流速が変化したとき、川の流れはどうなる?
・川底がどのくらい深くなる?
・土砂の堆積はどのくらい?
・橋脚の基礎がどのくらい沈む?

参加料振込み

事務より受付完了の連絡を受けてから
8/11(火)までにお振込ください。

銀行名 北洋銀行 北七条支店
口座名 応用生態工学会札幌 中村太士
口座番号 (普通) 3787550

E 記 録 事 項

(1) 送信タイトル: [応用生態工学会札幌セミナー参加申込]
(2) メールには以下の内容を記入してください。
①氏名・フリガナ・性別 ②所属先 ③連絡先(所属先・自宅の別を明記の上、郵便番号・住所・TEL・メール) ④参加申込事項(①午前の部、②午後の部、③懇親会、④オプション) ⑤合計参加料 ⑥申し入れ事項(貴機関の経理上請求書等が必要、事前振込みが困難、当日に領収書が必要 等ありましたらご記入ください)

8-3 第14回北信越現地ワークショップ in 富山 開催案内 ～ 山-川-海のつながりを考える PART II ～

趣旨：

北信越における現地ワークショップ in 富山は、これまで3回開催されました。それらのテーマを順に挙げれば、陸-川-海のつながりを考える～健全な物質循環をめざして～（2003年、第2回）、里地・里山のいのちを育む技術をめざして～森と水の生きもののために～（2006年、第5回）、とやまの生物多様性を守るために～その意義と実践～（2010年、第9回）です。このたび4回目の開催にあたり、初心に立ち帰るという意味も込めて再び陸・山から川、海とのつながりをテーマとしました。

山地を含めた陸域から各種物質の移動の話題、全国で富山湾でしか漁業が行われていないシラエビと富山湾特有の環境の話題、富山湾や千里浜における海岸保全の話題などを企画しました。今回は海に重きを置いた構成となっています。フィールドツアーではワークショップで話題にあげられた場所を中心に回りますので、健全な海と陸域の関係や海岸、海洋の保全についての議論を深めていただきたいと思います。ぜひ多くの皆様の参加をお願いいたします。

主催：応用生態工学会

協賛：(一社)北陸地域づくり協会、北陸技術士懇談会、富山・水・文化の財団(予定)

後援：国土交通省北陸地方整備局、富山県、富山県立大学、(一社)建設コンサルタンツ協会北陸支部、(公社)日本技術士会北陸本部、(一社)富山県測量設計業協会、(一社)富山県建設業協会、(公財)とやま環境財団、(公社)地盤工学会北陸支部、富山県内水面漁業協同組合連合会、富山県ビオトープ研究会、北日本新聞社、富山新聞社（全て予定）

実施主体：応用生態工学会富山

【1日目：ワークショップ：平成27年10月16日(金)】

■ワークショップ会場：富山県立大学 大講義室 外（射水市）<http://www.pu-toyama.ac.jp/>

○10：00 開会挨拶：高橋剛一郎（富山県立大学）

10：05～ 一般講演1部

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 1) 富山市水辺をきれいにする会の取り組み(仮題) | ：飯野浩太郎（富山県農林水産部） |
| 2) 富山海岸（浜黒崎付近）(仮題) | ：南保仁士（富山県土木部） |
| 3) 高月海岸における藻場の変化 | ：澤田和之（富山県立滑川高等学校） |

12：40～ 基調講演：森林流域からの栄養塩流出・流出負荷量評価の問題を解く鍵としての水文特性－
：芳賀弘和（鳥取大学）

13：40～ 一般講演2部

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 4) 黒部川の土砂循環の健全化に向けて | ：藤田士郎（国土交通省黒部河川事務所） |
| 5) 千里浜再生プロジェクトについて(仮題) | ：鈴木 穰（石川県土木部） |
| 6) 富山湾の海谷とシラエビの関係について(仮題) | ：南條暢聡（富山県農林水産総合技術センター） |

○15：30～16：50 総合討論：座長 玉井信行（東京大学名誉教授）

パネラー：芳賀弘和、南保仁士、藤田士郎、澤田和之（予定）

16：50 総括・閉会挨拶：玉井信行

○18：30～ 意見交換会（会場：富山市内 ホテルグランテラス富山）

【2日目：フィールドツアー：平成27年10月17日(土)】

■フィールド：浜黒崎海岸（富山市）、上市川河口（滑川市）、黒部川（黒部市）

8：20 富山県立大学 発(ワークショップ会場) ⇒ 9：00 富山駅 北口発 ⇒ 浜黒崎海岸 ⇒ 上市川河口 ⇒ 黒部川 ⇒ 16：30 富山駅 北口 ⇒ 17：10 富山県立大学

※フィールドツアー行程は予定であり、変更が生じる可能性があります。

■参加費：

ワークショップ : 学会員 2,000 円、非会員 2,500 円、学生 500 円 (弁当別)
フィールドツアー : 学会員 3,000 円、非会員 3,500 円、学生 1,500 円 (昼食込)
意見交換会 : 5,000 円 (一律) (当日会場にて徴収)

■振込先：

【ゆうちょ銀行】 口座名称：応用生態工学富山(地域研究会) 口座番号：13270-17520631
※他金融機関から振込の場合
〈店名〉三二八 〈店番〉328 〈預金種目〉普通預金 〈口座番号〉1752063

■定員：ワークショップ 200 名 フィールドツアー 50 名

■参加申込方法：

チラシ及び参加申込書は、近日中に応用生態工学会ホームページ(<http://www.eces.j.com/>)に掲載いたします。

【申込み〆切】

ワークショップ・フィールドツアー : 平成 27 年 9 月 28 日(月)

■申込・お問い合わせ先：応用生態工学会富山事務局（館下コンサルタンツ(株)内） 担当 栗林

TEL：076-478-0090 FAX：076-478-1190 E-mail：eces-toyama@tachishitaco.jp

※ 本ワークショップは、(一社)建設コンサルタンツ協会CPD、土木施工管理士連合会DCPD認定(予定)プログラムです。(当日受講証明書配布)

9 行事開催報告

9-1 地域勉強会in福井の報告 ～技術者のための魚道講座～

応用生態工学会 福井

木下 猛 ジビル調査設計(株)

堰や落差工などの河川横断工作物より上流を、生息・生育・産卵等の生活史の一部としている魚類にとって、魚道は海から川までをつなぐ重要な河川構造物です。この魚道について自然生態や河川工学などの様々な知見を学び、実際の魚道づくりに反映するために、応用生態工学福井は、平成 27 年 7 月 9 日（木）に「技術者のための魚道講座」を、ふくい里川研究会と共同で主催しました。

当日は、「技術者のための魚道ガイドライン」を執筆された日本大学 安田陽一教授を招いてご講演いただき、その後、九頭竜川の支川である永平寺川の魚道群と、福井県を代表する河川構造物の一つである九頭竜川鳴鹿大堰の魚道の見学を行いました。

参加者は、魚道の研究者、管理者（行政）、設計者、施工者、NPO、学生等の計 61 名でした。

開会挨拶

田原大輔氏（福井県立大学准教授）より、基本認識として、まず堰や落差工などの河川横断工作物の必要性を十分に吟味し、その上でそれらの河川横断工作物が必要と判断されれば、次の段階として魚道の設置を考えるべきで、この基本認識の上で本日の魚道講座を聴講いただきたいと述べられました。



田原大輔氏による挨拶

講演：魚道の設置に伴う河川との接続環境について

安田陽一氏（日本大学理工学部 土木工学科教授）

最初に、魚道本体は重要ですが、その上下流の接続環境にも目を向けていただきたいと述べられた後に、いくつかの事例を用いて説明されました。

□球磨川遥拝頭首工魚道（熊本県）： 魚道下流部において、改修前は気泡混入した強い流水が四方八方に流れ出ていたものが、下流部の平面形状を変え突起を作ることで魚道入り口付近への気泡混入がなくなり、魚が集まりやすくなったという事例で、安田教授がご自分で描かれた図を用いて説明されました。

□高梁川潮止堰魚道（岡山県）： 魚道本体の改修事例で、改修前は前面に気泡混入が見られたが、台形断面魚道を魚道全体に設置することで気泡混入は緩和され魚がのぼるようになり、特に壁面部では耐流速性の低い稚魚の遡上が確認されたということでした。また夜間に赤外線カメラを用いて魚道をウナギが遡上する写真も見せていただきました。

□チエンベツ川治山堰堤魚道（北海道）： 主ダムと副ダムを合わせた高さが 9 m の堰堤に折り返し式の魚道を新設した事例で、対象魚はカラフトマスやサケ等です。まず土砂堆積の少ない右岸側を選び、そこにプール式台形断面魚道を設置し、円滑な遡上と降下を行えるようにしたという事例でした。設置した魚道で実際にカラフトマスが遡上する動画を見せていただきました。

それまでカラフトマスを捕食するヒグマが民家の近くまで出没していたのに、カラフトマスの生息域が上流に移ったことでヒグマの生息域も上流に移り安全になったというお話を聞き、魚道が陸域の生態系にまで影響し、さらには人間の生活にも影響を与えるという、とても興味深い事例でした。

また北海道の他事例を取り上げて、常時流量が多い状態での迷入防止に配慮した魚道や、コンクリートを用いない自然素材（石組み）だけで改修した魚道についても紹介されました。

□頭首工および砂防ダム（長崎県）： 頭首工に台形断面魚道を新設した事例で、平常時の河川流量が小さいた



安田陽一氏による講演

め魚道以外の流れを最小限にするというものです。魚の迷入を防止するために、魚道の入り口部（下流）に主流がくるように配置したもので、張り出し式でした。張り出し式なら引き込み式よりも工事が簡単になると感じました。

砂防ダムに台形断面魚道を新設した事例で、切り欠き（壁面に左右交互に設けた高さの低い隔壁）からアユが遡上する動画を見せていただき、体長 10cm 程度のアユが流速約 2.5m/s を遡上する様子が分かりました。

□中島川床止め工魚道（長崎県）： 床止め工において、既設の礎石付全面魚道は常時には流量がないため水深が確保できないので、中央に台形断面魚道を設置して環境を改善した事例です。常時の流水は中央の台形断面魚道を流下するので魚はここを利用し、洪水になると礎石付魚道を利用するというものでした。

この事例では、流速分布を示していただき魚道内の状況を説明していただきました。

また、アイスハーバー型魚道を半台形断面型魚道に改良した事例、魚道直上流での滞筋の調整や水制の効果についての事例説明や、アイスハーバー型魚道と台形断面型魚道の水流の乱れの強さを断面図上で可視化して比較するなどの説明をしていただきました。

□利根川水系支川の床止め工魚道： 魚道の隔壁の損傷を経年的に把握しようと、施工 3 年後、6 年後の水中画像を見せていただきました。施工直後の隔壁は所定の高さだったのに、3 年後は出水によって隔壁がすり減っていましたが、6 年後には 3 年後と変わりありませんでした。つまり、最初は時間経過につれて隔壁はすり減るが、隔壁も台形をしているために徐々に削れにくくなっていった安定化するというものでした。

また他の事例では、何もしなければ魚道の上流が堆積し魚道内にも砂礫がたまりますが、水制を置いて洪水時の主流を曲げることで、上流の堆積を軽減させるとともに、平常時に堆積した魚道内の砂礫がフラッシュされるということでした。

また、モクズガニ、ヨコエビ、石巻貝およびカワニナ、フクドジョウ、カゲロウ、ニホンウナギ等の様々な水生生物の遡上・降下について動画等を用いて説明していただきました。

□都市河川の分木工の魚道（神奈川県）： 都市域の河川における事例で、神奈川県の大井町に洪水調節のための分木工があり、そこに遡上、降下に適した魚道を設置したものでした。特に、降下についてはほとんど流速のないところでもスリットに向けて河床をすり鉢状にすることで小流速が生じるということを水理実験から明らかにし、それが魚類の降下を補助するということが分かりました。



質疑応答の様子

次に、質疑応答に入り、安田教授が考案された台形断面魚道の形状寸法、ハーフコーン型魚道の特徴、水際と中央部の環境、魚道幅員と流量の関係等についての質疑があり参加者の意識の高さを感じました。

その後、廣部英一氏（福井工業高等専門学校名誉教授）から永平寺川の魚道群と鳴鹿大堰の魚道についての説明を受け、現地に移動しました。



廣部英一氏による説明

現地見学 1（永平寺川の魚道群）

池田圭佑氏（福井県河川課主査）から永平寺川の魚道整備の経緯や工夫点等を、また、安田龍司氏（サクラマスレストレーション代表）からは現状等の説明をいただきました。永平寺川の魚道は 8 基ありますが、そのうち今回は写真の 4 基を対象に見学しました。

サクラマスとシロザケを対象魚種とし、それらが遡上しやすいように形状寸法等を皆で検討し、自然素材を用いた工法で魚道は完成しました。その後の調査で 70 匹のサクラマスの遡上が確認されたそうです。

さらにより良い魚道とするための工夫点として、安田教授から例えば第 1 号魚道では、流水の勢いが強く中央部で水が壁面から剥離していて、大きな魚は遡上可能だが小さな魚は遡上が困難なので、下流の水位を上げる等の対策を考えてほしいと指摘がありました。



第1号魚道



第2号魚道

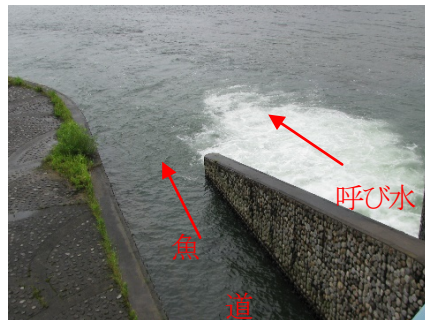
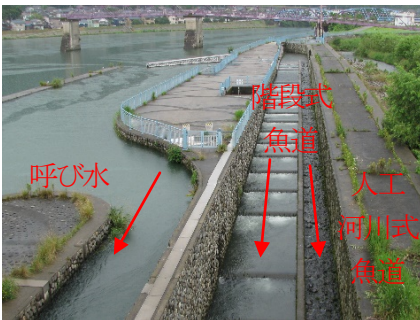


第7, 8号魚道

現地見学2（九頭竜川鳴鹿大堰の魚道）

堀内厚志氏（国土交通省福井河川国道事務所鳴鹿大堰管理所課長）から鳴鹿大堰の魚道の現状について説明を受けました。階段式、人工河川式、デニール式の魚道のほか、降下アユ用ゲートや呼び水水路など大規模な施設で、今回は見学しませんでした。魚道観察室も整備されています。

また魚道の越流水深の調節や、魚道流量に伴って呼び水流量を調節するなど、維持管理面でも魚類等に優しい配慮をしているそうです。



今回の魚道講座は、改良あるいは新設する場合のヒントがいっぱい詰まっていて、福井県の魚道づくりを見直すきっかけになればよいと感じました。また魚道ありきでなくまずは河川横断工作物の必要性を考えると、魚道は水域だけでなく陸域にも影響することを再認識しました。

最後に、共催していただきました(公財)福井県建設技術公社、ご後援をいただきました国土交通省福井河川国道事務所・福井県河川課・北陸技術士懇談会、ご協力いただきました福井県立大学・福井工業高等専門学校・福井県建設技術研究センター、そして日頃から応用生態工学会福井の活動にご参加いただいている県内のコンサルタント・建設資材メーカー・建設会社・行政等の技術者の皆様に厚くお礼申し上げます。

9-2 第2回北信越技術研究会の報告

応用生態工学会 富山
野田 猛 館下コンサルタンツ(株)

1. 概 要

平成 27 年 3 月 21 日（土）、好天に恵まれる中、第 2 回北信越技術研究会を「神通川自然再生事業」実施箇所で開催しました。神通川自然再生事業は、神通川本来の多様な自然環境を再生・創出し、絶滅の危機に瀕している神通川のサクラマスの子孫に適した環境の再生を目指すものであり、国土交通省北陸地方整備局富山河川国道事務所が、富山県、富山漁業協同組合と連携し、平成 18 年より実施してきた事業です。

第 1 回研究会は、去る平成 25 年 1 月 26 日に開催され、「神通川自然再生事業」施工中の現地調査及び室内討論を行いました。第 1 回技術研究会開催後、多くの参加者からメールをいただきましたが、いずれも完成 1～2 年後、再度見学・討論したいとの内容でした。

そこで完成後 2 年が経過した本年、現地の状況を参加者の目で確認し、モニタリング調査等の説明を受け全員で討論するため、第 2 回応用生態北信越技術研究会を同箇所で開催したものです。

今回の参加者は、研究会 30 名、交流会 14 名でした。

2. 現地調査

当日は、13時に神通川水辺プラザ「自然ふれあい学習館」に集合の後、車に分乗し現地調査に向かいました。現地では、富山河川国道事務所 二俣秀副所長、泉惣治河川環境課長より工事概要等の説明を受けました。

最初にサクラマスの越夏場所として自然再生を図った神通川本川右岸「神通」地先（H24施工）の現地調査を行いました。越夏場所としての重要な要因は、深い淵の確保（水深 2m 以上、流速 0.5m/s 以下）、夏期の水温が 25℃ 以下であることに加え、サクラマスが外敵から身を守るための水中カバーの存在が重要との説明がありました。越夏場所の整備は、ブロックによる減勢工、木工沈床やブロックによる魚巣工及び空隙の確保による水中カバーの復元が施工されていました。

次に越冬場所として整備した西派川「成子」地先（H24施工）の現地調査を行いました。越冬場所としての重要な要因は、流速 5 cm/s 以下の緩やかな流れと産卵床となる礫の存在に加え、倒木等の陸上カバーの存在が重要とのことでした。ここでは、木工沈床による魚巣工や河床礫による人工産卵床、ワンド部での捨石工等が施工されていました。なお、若干、流速が大きい感がありましたが、平成 26 年度より上流発電所の運用ルールが変更（放流量増）になったため、現在、改修設計中との説明がありました。

3. 室内討論

現地調査の後、会場を現場近くの神通川水辺プラザ「自然ふれあい学習館」に移し、室内討論を行いました。

討論開始にあたり、実行委員長 玉井信行東大名誉教授より本研究会の主旨説明があり、富山河川国道事務所 松井健一事務所長からは歓迎のご挨拶がありました。その後、2 名の方々



越夏場所（神通地先）での説明



越冬場所（成子地先）の現地調査



室内討論

から話題提供をいただき、現地踏査の結果と合わせ、活発な室内討論が実施されました。

3.1 神通川魚類生息環境調査（話題提供者：富山河川国道事務所 二俣秀副所長）

富山河川国道事務所が実施した神通川魚類生息環境調査の概要について、同事務所二俣秀副所長より話題提供を受けました。本調査は、神通川のサクラマスを中心とした魚類生息のための環境再生検討の一環として、サクラマスの越夏場所・越冬場所においてモニタリング調査を実施したもので、調査内容は潜水調査・採捕調査による生息確認、流速・水深・水温等の調査、産卵状況調査などが実施されています。

モニタリングの結果から、水温については越夏場所・越冬場所とも夏季の水温が20℃前後で推移し、生息上限水温である25℃以下を保っているため問題がないとのことでした。

水深については、越夏場所では一部を除き2mを確保していることが確認されていました。しかし、越冬場所では成子地先などで、鳥に捕食されない目安の0.5m以上が確保されていない箇所があり、今後の検討が必要であるといった報告がされました。

参加者からは、越夏場所・越冬場所の施工状況やその後の施工箇所の変化についての質問があったほか、川の規模の割には淵の整備箇所が少ないのではないかと意見が出されました。また、神通川本川では防災面を重視することが必要であるが、西派川では自然再生の観点からいろいろなことができるのではないかと意見が出されました。

3.2 淵で越夏したサクラマス親魚が選択した水温と水深

（話題提供者：富山県農林水産総合技術センター水産研究所 田子泰彦内水面課長）

本調査は、河川へ遡上したサクラマス親魚の産卵までの行動生態・越夏環境の解明とその保全技術の開発を目的に、データロガーを装着したサクラマス親魚の追跡調査を行ったものであり、その調査結果が報告されました。

調査の結果からは、越夏に際してサクラマスは、20℃の水温でも生存に影響がないこと、淵の底に静穏にしているのではなく、深い水深があっても日中には水深1m前後の表層付近での遊泳を好み、夜にはそれより深い水深帯を遊泳することが確認されたそうです。

また、サクラマス親魚が選択した平均水深は、産卵時期に近づくほど浅くなる傾向が見られたことから、産卵時期が近づくと、サクラマスは生息水深を浅くすることによって、産卵場への遡上に備えるものと推測されることが報告されました。

神通川のサクラマスは、かつては岐阜県まで遡上し、漁獲高は1900年代初頭には約170tあったものが現在では1t以下にまで激減しています。その後の討論では、この現状を踏まえた討論がなされ、参加者からはダム、堰等の遡上環境を良くする取り組みや産卵環境の再現の取り組みの紹介がありました。また、玉井委員長からは、カナダのウィーバー川でのサケを対象にした大規模産卵用水路（産卵用の人工河川）の事例が紹介されました。

最後に玉井委員長より、「第1回、第2回とつながりのあるテーマで議論できて大変良かった。越夏場所～越冬場所～産卵場所」という段階的な議論により今後につながる具体的なアイデアを出していけるのではないかと感じた」との総括で第2回北信越技術研究会を終了しました。

4. おわりに

富山名産「ますの寿し」の原材料でもあるサクラマスは、古くは江戸時代から地元産が使われてきましたが、河川環境の変化とともに激減し、現在では絶滅の危機に瀕しています。サクラマスの生息環境を再生することで、アユをはじめとする他の魚類の生息環境も向上し、多様な河川環境の再生が可能となるほか、自然再生事業の現場は、河川環境学習の場としての機能も期待されます。

最後になりましたが、開催にあたり、国土交通省富山河川国道事務所の関係者の皆様に多大なご支援、ご指導を賜りました。ここに深く感謝申し上げます。

平成25年に開催した第1回研究会では、積雪により要望の強かった産卵・越冬場所の見学ができませんでしたが、今回は好天に恵まれ十分な現地調査ができました。技術研究会にご参加いただいた皆様、及びスタッフの皆様、どうもありがとうございました。

10 海外学会派遣報告

SFS Annual Meeting 2015 参加報告

北海道大学農学院 石山信雄

(1) はじめに

今回、応用生態工学会様からの渡航支援を受け、Society for Freshwater Science Annual Meeting 2015に参加させて頂きましたので、その概要を報告させていただきます。本大会はアメリカ・ウィスコンシン州ミルウォーキーで、5/17-22の6日間行われました。

(2) 会議の概要

前半の5日間は9時~17時まで発表が行われ、毎日朝一番には大御所の研究者による1時間ほどのPlenary Talkが開催されました。富栄養化やトロフィックカスケード研究の先駆けであるSteve Carpenterがその例です。Carpenterさんは、気候変動、土地利用、人口増減による食糧需要の変化といった多様な因子をシナリオに組み込み、生物多様性や生態系サービスの時空間的な変化を予測し公開することが、今後の複雑な生態系管理を成功する一つの手段であることを主張しておられました。

大会中は多くの口頭・ポスター発表が行われましたが、日本学会との大きな違いの一つは聴衆からどんな些細なことでも必ず質問が出る点です。そのため、どの会場もとても活気が感じられました。また、計画段階の発表がされていた点も印象的で、研究をより良くしていこうというアメリカ研究者の気概に触れることができる良い機会でもありました。発表を聞き、特に私が興味を頂いた点を2つ紹介させていただきます。1つ目は、人為的インパクトの影響評価や自然再生事業の効果検証にEcosystem Function(生態系機能)を取り入れている研究が多くあった点です。日本の自然再生事業では、多くの場合個体数や種多様性の変化が評価軸となりがちですが、そうした多様性や水質を根本から改善するためにも、日本でもNutrient retention(栄養塩保留)やCarbon cycle(代謝速度)等の機能に着目した自然再生も必要になってくるのではないかと感じました。また2つ目は、Citizen Science(市民科学)の進展です。アメリカ全体で1500以上のプログラムが現在進行しており、教育・研究・政策決定等の幅広いレベルでその成果が活用されているようでした。専門家による技術的指導の徹底、簡便なモニタリング手法やデータベースの開発、またプログラム間の連携の強化を行うことで、市民科学が強力な生物多様性保全のツールになる可能性があることを実感しました。

(3) 現地視察の概要

最終日のField Tripでは、Stream Restoration for Aquatic Connectivity in the Milwaukee River and Lake Michigan Watershedsに参加させて頂きました。ミルウォーキー川流域では2005年以降、流域の連結性を回復させるために再生事業が活発に実施されています。現地視察では、堰堤撤去や、瀬淵やワンド構造を取り入れた自然魚道の設置、河川の再蛇行化による横断的連結性の回復等の再生地を視察し、実施上の背景や生物の応答について説明を受けました。魚道設置場所では、水中カメラ、PITタグ等様々な手法を用いた魚類遡上のモニタリングも実施されており、事後評価から今後の対策につなげる順応的管理がしっかりと行われている点に感銘を受けました。このプログラムの詳細や、日本での連結性保全の現状との比較については、後日応用生態工学会誌でまとめさせて頂く予定です。



写真：現地視察（ミルウォーキー川にて）

(4) おわりに

このように、学会中国内学会では味わえない貴重な経験を積むことができました。末筆となってしまいましたが、ご支援下さった応用生態工学会の皆様には厚く御礼申し上げます。

11 年間行事予定

2015 年度行事結果と予定

月 日	記 事
4. 1	2015 年度（平成 27 年度）開始
4. 6	第 1 回次期役員募集・推薦委員会 (麴町：応用生態工学会事務所)
4. 5～24	国際交流委員会（メール会議）
4. 14	事務局改善ワーキンググループ会議 (麴町：応用生態工学会事務所)
4. 25	2015 年度海外学会等派遣者 決定
5. 12	会誌編集委員会 (麴町：応用生態工学会事務所)
5. 12	第 64 回幹事会 (麴町：応用生態工学会事務所)
5. 15～21	第 76 回理事会（メール会議）
5. 22	ニュースレター 68 号 発行
6. 1～30	次期役員候補募集期間
6. 12	普及・連携委員会 (熊本市国際交流会館)
6. 12～13	第 7 回応用生態工学会フィールドシンポジウム in 熊本 (熊本市・球磨川流域)
6. 18	第 77 回理事会 (麴町：弘済会館)
6. 28	会誌「応用生態工学」Vol. 18 -1 発行
7. 6	第 2 回次期役員募集・推薦委員会 (麴町：応用生態工学会事務所)
7. 9	地域勉強会 in 福井 ～技術者のための魚道講座～ (九頭竜川流域防災センター他)
7. 17	第 65 回幹事会 (麴町：応用生態工学会事務所)
7. 29	第 3 回次期役員募集・推薦委員会（メール会議）
7. 31	ニュースレター 69 号 発行
8. 6	第 78 回理事会 (麴町：弘済会館)
8. 17	応用生態工学会札幌セミナー 「本来の川を取り戻すために…その 10」 (札幌市豊平川さけ科学館、札幌市南区民センター)
9. 10～13	応用生態工学会第 19 回郡山大会 (日本大学工学部キャンパス) 9 月 10 日（木）：エクスカッション A [三春ダムコース] (午前半日) 研究発表（ポスター）、自由集会 9 月 11 日（金）：研究発表（口頭）、自由集会、懇親会 9 月 12 日（土）：午前：役員会・総会、午後：公開シンポジウム 9 月 13 日（日）：エクスカッション B [福島県松川浦・仙台湾南部海岸コース]

9. 12	第 66 回幹事会、第 79 回理事会 第 80 回理事会・第 67 回幹事会 (日本大学工学部キャンパス)
9. 10～12	大会期間中に、普及・連携、国際交流等の各委員会を開催
9. 13	国際シンポジウム「流域・沿岸におけるグリーンインフラの概念と方法論」 (東京工業大学 くらまえホール)
10. 16～17	第 14 回北信越現地ワークショップ in 富山 ～山－川－海をつながりを考える PART II～ (富山県立大学他)
時期未定	遠賀川中島自然再生研究会
10	応用生態工学会長野 勉強会 (現地見学会＋検討会；場所未定)
11	応用生態工学会福井 勉強会 (ミニ現地ワークショップ 嶺南)
12	会誌「応用生態工学」Vol. 18-2 発行予定
12	第 68 回幹事会 (麹町：応用生態工学会事務所)
12	ニュースレター70号 発行
2	第 81 回理事会
2	ニュースレター71号 発行
2	2016 年度海外学会等派遣者の募集
2015 年度終了	

12 事務局より

会誌 18 巻 1 号を 6 月 28 日に発刊しました。この時期は 4 月の卒業、転居、部署異動の関係で、会誌が宛所不明で事務局に返送されてくることが多く、事務局では、登録されている自宅電話、携帯電話、E-mail により正しい送付先を探し、再送する事務手間と経費が結構な負担となっています。

事務局としては、会員に会誌をお届けするのは大事な役目なので、今後もできる限りお届けする努力を続けようと考えていますが、会誌再送の経費は、事務局の登録変更ミスを除き、会員側での原因により再送を希望する場合は、会員負担の公平性の観点からも、再送代を負担していただこうと考えています。ご理解いただきますようお願いいたします。

メールアドレスの変更は、学会と会員を繋ぐ大切な情報です。また、自宅電話、携帯電話はこれを補完する際にとっても役に立っています。ご協力をお願いいたします。

● 会員登録情報変更連絡フォーム

<http://www.eces.j.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=change>

● 事務局への連絡方法

事務局へのお問い合わせや連絡は、まずはメールでお願いします。記録が残り、間違いが少なくなりますので、電話より有効です。必要になれば、学会から電話でもご連絡いたします。

学会事務局のアドレスは、E-mail : eces-manager@eces.j.com です。

〔2015年7月30日現在 会員数〕

名誉会員：	5名
正会員：	962名
学生会員：	124名
合 計：	1091名

LEE購読者数

正会員：	94名
学生会員：	2名
合 計：	96名

賛助会員： 33法人（48口）